

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 《 グローカル型 》

令和元年度 研究開発実施報告書 【 第1年次 】

外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト
～新たなコミュニティーを協創できるスーパーグローバル・リーダー(SGL)の育成～

Rainbow Bridge Project! -Think Globally, Act Locally-



名古屋石田学園 星城高等学校

名古屋石田学園星城高等学校

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

【グローバル型】

SGL活動開講式（小浮正典豊明市長・石田学園長・四方校長）



ロジカル・フレームワーク（古藪真紀子講師）



ロジカル・シンキング（森嶋計詞講師）



地域協働プログラム スギ薬局介護予防体操支援



地域協働プログラム 子ども日本語教室学習支援



探究学習プログラム 花溢れる街づくりプロジェクト



地域住民との
花壇づくり



花壇づくり
完成



探究学習プログラム 花溢れる街づくりプロジェクト

地域住民との 花植え協働



探究学習プログラム 花溢れる街づくりプロジェクト

花植え後
花壇完成



探究学習プログラム 花溢れる街づくりプロジェクト

花植え後
花壇完成



探究学習プログラム ポスターセッション形式での発表

ポスターセッション



マレーシア海外研修 ～多文化共生の学び～

マレーシア
海外研修



目 次

まえがき	石田正城	1
SGL 活動と建学の精神	四方 元	2
1. 研究開発の概要		5
(1) 研究開発の概要		
(2) 研究開発の経緯		
(3) 概念図とロジック・モデル		
2. 研究開発の組織		9
(1) コンソーシアム		
(2) SGL 開発部会・SGL 実行委員会・運営指導委員会		
(3) 海外交流アドバイザーと地域協働学習実施支援員の役割		
(4) 組織図		
3. 研究開発の内容【 SGL 地域協創学 I 】		13
(1) 総合的な探究の時間【SGL 地域協創学 I】		
(2) 探究学習プログラム① 【ロジカル・フレームワーク、ロジカル・シンキング等】		
(3) 探究学習プログラム② 【花溢れる街づくりプロジェクト】		
(4) 探究学習プログラム③ 【ポスターセッション形式での提言発表】		
(5) 地域協働プログラム 【スギ薬局・子ども日本語教室】		
4. 研究開発の内容【 SGL 英語 I 】		42
(1) 「SGL 英語 I」【仰星コース】シラバス		
(2) 「SGL 英語 I」【特進コース】シラバス		

5. マレーシア海外研修の研究開発 海外研修の企画と実施		48
6. 活動成果の発表 3月の成果発表会		50
7. 目標設定の達成度と活動評価 (1) ルーブリック評価 (2) 目標設定シートの達成状況		53
8. 校内運営組織における研究開発実施上の課題及び来年度の構想 (1) 反省と課題 (2) 来年度の構想		63
2019年度活動について	古藪 真紀子	68
講評	伊藤 泰臣	77
あとがき	水野 謙二	80

まえがき

本学園創立者、石田鏞徳先生は建学の精神として「世界観の確立」を掲げられた。「今日、世人が挙って英語を学習するのは、広く知識を世界に求め、真に世界一家、人類同胞の幸福な人生を顕現するためである。かかる高遠なる理想の下に、日夜学窓にいそしんでいる我等は決して自己一個人の利益のためにのみ学んでいるのではない。否、生活の便宜のために、何等かの利益を得んがためにのみ学んでいるのではない。各人が自覚すると否とに拘わらず、我等の進路は国際的の大道である。・・・」と学園を創立された。

戦後(昭和 20 年)75 年を経た今日、国民が未来に夢や希望を持たずにいる。日本はやっとこの本学園の教育理念に気づき、「教育改革」に本腰を入れ始めた。文部科学省の研究開発指定校を機に、一層生徒諸君には SGL 活動を通じて、日常生活に於いて広く眼を世界に注ぎ、自らの人格形成と人類への文化的寄与とを遂行して、世界的人生観を確立しなければならない。

名古屋石田学園
理事長 石田正城

SGL 活動と建学の精神

星城高等学校 校長 四方 元

17 世紀のフランスの詩人であるラ・フォンテーヌの寓話に「農夫とその子どもたち」があります。この寓話のあらまはは次のとおりです。

ある裕福な農夫がいました。農夫は自分の死が近いことを悟って子どもたちを呼び寄せ、そして語ります。

「ご先祖さまが残してくれた農地を売ってはならない。宝が隠してあるのだ。」

「場所はどこか、わしは知らない。だがすこし根気よく探せば見つかるだろう。」

父親が亡くなった後に子どもたちは畑を掘り返しました。隅から隅まで深く掘り起こしましたが、宝物は出てきませんでした。

ところが次の年の秋、作物は例年になく大豊作となったのです。

畑に宝は隠されていませんでした。しかし、畑を隅々まで深く掘り起こしたことで大豊作になったというわけです。

父親は死に先立って息子たちに教えたのでした。「労働は宝である」と。

1993 年、ユネスコは 21 世紀の教育や学習の在り方を検討するため、「21 世紀教育国際委員会」を組織しました。そして、その委員会は 1996 年に報告書を発表します。それが有名な「学習：秘められた宝 (Learning : The Treasure within)」です。この表題はラ・フォンテーヌの寓話「農夫とその子どもたち」から採ったものです。

農夫は「労働が宝である」ことを教えたのですが、ユネスコの報告書は、これにならって「学習が宝」であると主張したのです。つまり、自分の中にある潜在的な能力を秘められた宝にたとえ、それを掘り起こす学習というプロセスが大切であるとのメッセージを表題に込めたのでした。

このレポート「学習：秘められた宝」は四つの柱（教育方針）で構成されています。つまり「知ることを学ぶ (learning to know)」「為すことを学ぶ (learning to do)」「共に生きることを学ぶ (learning to live together)」「人間として生きることを学ぶ (learning to be)」の四つです。これは、本校の建学の精神である「報謝の至誠」「文化の創造」「世界観の確立」と見事に符合していると、私は思います。創立者石田鏞徳先生の先見がいかにも優れているかがわかる一例です。

「知ることを学ぶ」と「為すことを学ぶ」は探究の基本です。そして、「共に生きること」を外国人市民との共生ととらえ、「人間として生きる」を高齢者の

健康社会の構築ととらえると、四つの柱は本校の SGL(Super Glocal Leader 育成活動) の理論的裏付けになっています。そして、SGL は建学の精神の具現化そのものと言えるのです。

SGL では課題探究のテーマとして「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋づくり」を設定しています。ここで言う「課題探究」とは、「課題の発見」「仮説の設定」「仮説を証明するための実証実験の計画策定」「実験結果の考察」そして「考察結果の表現」という一連の学習を指します。SGL ではこの学習をグループで行います。そうすると、これは、ユネスコの言う「知ることを学ぶ」と「為すことを学ぶ」にピッタリと当てはまります。また、SGL では「外国人市民との多文化共生を推進する地域活動」に取り組み、外国人市民がいつそう輝く新たな地域社会の形成を目指しています。これは「共に生きることを学ぶ」ことそのものです。

ところで、人間性とは何でしょうか。表現を変えて「人間と他の動物の違いは何か」としてもよいでしょう。この問いに対する答えは様々あります。たとえば、遊戯が人間活動の本質であるとするホイジンガのホモ・ルーデンスという考えや、人間の本質は創造活動にあるとするベルグソンのホモ・ファーベルなどがあります。

ホイジンガやベルグソンのような歴史上の偉人に異を唱える気は毛頭ありませんが、私は、人間と他の動物との違いは、高齢者を大切にすかどうかにあると思っています。獣も自分の子は大切にします。しかし親を大切にしたり、足腰の弱った高齢の仲間を大切にしたりする獣はいません。そうだとすると、人間性の本質は高齢者を守ることにあると言っても過言ではないのです。この点で、本校の建学の精神である「報謝の至誠」は人間性の極致であると断言できます。また、「学習・秘められた宝」の四つの柱のうちの「人として生きることを学ぶ」と同義とも言えるのです。

SGL では、「高齢市民との安心・安全な健康生活づくりを協働する地域活動」も達成目標の一つです。これは、「人として生きることを学ぶ」の実践であり、「報謝の至誠」の具現化なのです。

劇作家の山崎正和氏は、次のような趣旨のことを述べています。

「あらゆる資本主義国家で国内の格差が拡大している。しかし、アメリカやヨーロッパ諸国、あるいは中国や香港に比べれば、日本の社会間格差はほとんど問題にならないくらい小さい」「アメリカやヨーロッパで猛威を奮っているポピュリズムは階級的な分断、人種・民族による分断を引き起こしている。しかし、我が国では、ヘイトスピーチを繰り返す一部の不屈き者はいるけれど、社会を分断する憎悪のうねりは見られない」「阪神・淡路大震災の折りには、実に 150 万人

ものボランティアが全国各地から集まり、被災地で無償の働きをしている。これ以降、東日本大震災でも、その他の風水害の時も、ボランティアの姿は日常茶飯事になった。尊い公德心を持つ人の数が、日本の歴史上最も多いのが現在である」。

山崎氏の言説にしたがえば、日本はとても素晴らしい国だと言えます。しかし、氏は一つ問題点をあげています。それは「過去 50 年の間に、地縁・血縁が失われ、人々が孤立している」と言うのです。ちょうど 10 年前、NHK が「無縁社会」という番組を放送したことを思い出します。

本校の SGL は、少し大げさに言えば、無縁社会という現代日本の闇を照らす一条の光になり得るのです。「知ることを学ぶ」と「為すことを学ぶ」探究活動によって、「共に生きること」と「人間として生きること」を実践の中で学び、「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋づくり」に取り組むからです。とともに、人間は人倫の中でしか人間として成長することはないことを思うとき、SGL は学校教育の一つの基本形であり、「報謝の至誠」を掲げる本校教育の目指すべき姿だと考えます。

SGL に参加する生徒諸君が、それぞれの課題探究に主体的に関わり、自身に潜在する能力を掘り起こすことを心から望んでいます。と同時に、SGL は 21 世紀の学習を先駆的に行っているという誇りをもって活動することを念願します。併せて、SGL に関わるすべての生徒と職員の絶大な努力に衷心より感謝します。

1. 研究開発の概要

(1) 研究開発の概要

星城高等学校は文部科学省より「地域協働推進校」の指定を受け、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に取り組むことになった。この事業はSGH(スーパーグローバル・ハイスクール)の後継事業の一つと言われており、高等学校が市町村や産業界などと協働してコンソーシアムを構築し、地域課題解決等の探究的な学びを実現する取組である。本校が指定を受けたグローバル型は、グローバルな視点をもってコミュニティーを支える地域のリーダー育成が目的となる。各地域の特性に応じたグローバルな社会課題研究としてSDGs、地域、文化、医療などのテーマを設定し、その解決に向けた探究的な学びをカリキュラムの中に体系的・系統的に位置付けるカリキュラム開発を実施する。この事業の初年度となる令和元年度は全国で20校が指定を受け、そのうち14校が公立高校、6校が私立高校であった。

人と人との繋がりが希薄になりつつある地域社会において、さまざまな立場の市民の繋がりが活性化する新しいプロジェクトを共生・協働という観点から協創することができる地域リーダーの育成を研究開発の目的とする。本校が立地する愛知県豊明市では、とりわけ外国人市民と高齢市民の増加が顕著であり、このことへの対応が地域全体の大きな課題となっている。そのような現状を踏まえて、今回の研究開発では「外国人市民との多文化共生を推進する地域活動」と「高齢市民との安心・安全な健康生活づくりを協働する地域活動」に取り組む。この活動を通して外国人市民と高齢市民がより輝く、新たなコミュニティーの形成を目指す。この活動の名称は、スーパーグローバル・リーダー(Super Glocal Leader)育成活動とし、その略称として「SGL」と表記する。また、地域協働コンソーシアム全体で共有するSGL活動のスローガンとして、『Rainbow Bridge Project! - Think Globally, Act Locally -』を掲げる。

市民全体が輝く新たなコミュニティーを協創できるグローバル・リーダーの育成のために、課題探究のテーマとして「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋づくり」を設定し、「多文化共生」・「健康福祉」・「コミュニケーション力」の3つの探究的学習アプローチで構成する教育課程を研究開発する。生徒育成目標となる具体的な人物像は、①「異なる考えを容認し、共生しようとする人間」、②「他者と協働して問題解決を図ろうとする人間」、③「自らの考えを発信して多くの人々と新たなものを協創できる人間」、④「人との繋がりを大切に、感謝のできる実践力に富んだ地域のリーダー」である。

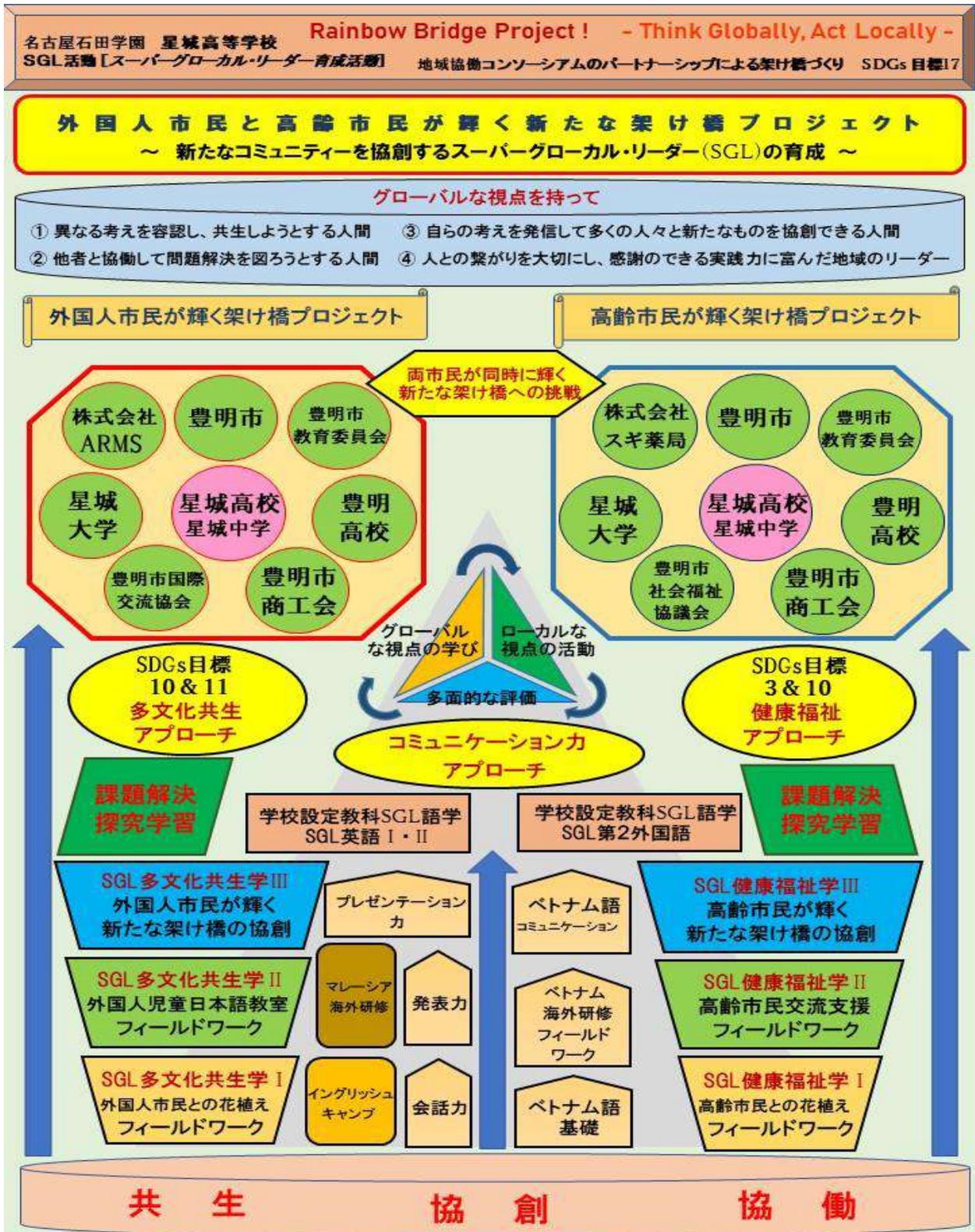
（２）研究開発の経緯

本校の仰星コースは平成 26 年度にグローバル人材育成プログラムとして、「星城版スーパーグローバルハイスクール事業」を独自に立ち上げた。「持続可能なアジアの発展に寄与できるグローバル人材の育成」を目標に掲げ、アジア諸国が抱える課題解決のための探究活動を行った。平成 27 年度からは SGH アソシエイト校の指定を受け、『持続可能なアジアの発展に寄与できる、実践力を有するグローバル・リーダーの育成』を目標に掲げて探究活動を展開してきた。4 年間のアソシエイト活動を経て、グローバルな視点での探究活動の結果から課題のいくつかは、地元の豊明市が抱える課題と共通することに気づいた。地元が抱える外国人市民と高齢市民に関わる諸問題を、今やグローバル化している社会課題と捉え、課題解決に向けて生徒が主体的に取り組むことが本校における探究活動の柱となった。このような活動と実績を踏まえ、グローバルな視点での学びと地域課題解決に向けた探究的な学びをさらに促進させるため、文部科学省への応募申請では対象コースを仰星コースだけではなく、新たに特進コースを加え、対象生徒の規模を拡大することになった。

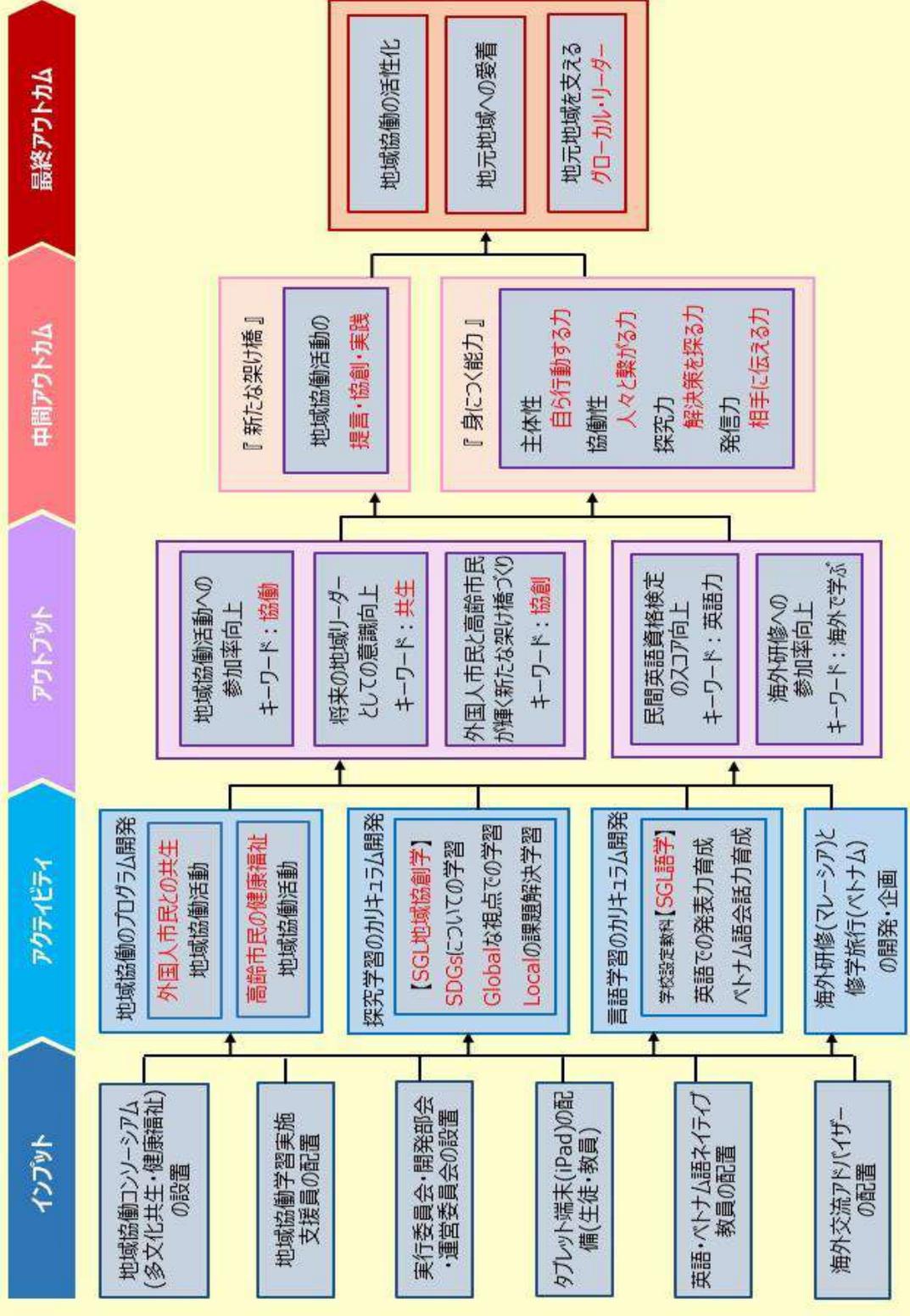
（３）構想図とロジック・モデル

研究開発のテーマを「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト～新たなコミュニティーを協創するスーパーグローバル・リーダー(SGL)の育成～」と設定した。次に目標とする生徒育成人物像を定め、地域協働に取り組むコンソーシアムの構成を協議した。多文化共生アプローチ・健康福祉アプローチでは外国人市民との共生と高齢市民の健康福祉についての探究的な学びに取り組む課題解決学習を設定した。コミュニケーション力アプローチでは英語力向上に取り組み、また第 2 外国語学習に挑戦することになった。このような構想を一枚の図で示す構想図を作成した。

グローバル型地域協働推進校には文部科学省から委託された三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社による「高校魅力化評価システム」が導入されている。その評価システムの一つに、ロジック・モデルの作成がある。研究開発計画における「インプット」・「アクティビティ」・「アウトプット」・「中間アウトカム」・「最終アウトカム」を明確にし、研究開発がどのような目的で、何に取り組むのか、それによって何を成果として求めるのかを校内の教員及び校外のコンソーシアム各団体と共有するためのものである。6 月に初めてロジック・モデルを作成し、秋に行われた研究開発校全国サミットでの研修を経て、ロジック・モデルを修正した。



名古屋石田学園星城高等学校 『外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト』
 ～新たなコミュニティを協創するスーパーグローバル・リーダー(SGL)の育成～



2. 研究開発の組織

(1) 地域協働コンソーシアムの体制

外国人市民との共生を推進する多文化共生コンソーシアムと高齢市民の健康福祉を推進する健康福祉コンソーシアムをそれぞれ構築し、ダブルコンソーシアム体制で地域課題解決に向けた探究学習プログラム及び地域協働プログラムの研究開発に取り組むことになった。

【多文化共生コンソーシアム】

機関名
豊明市
豊明市教育委員会
豊明市国際交流協会
星城大学経営学部
株式会社 ARMS
県立豊明高等学校
豊明市商工会

【健康福祉コンソーシアム】

機関名
豊明市
豊明市教育委員会
豊明市社会福祉協議会
星城大学リハビリテーション学部
株式会社スギ薬局
県立豊明高等学校
豊明市商工会

企業や高等教育機関などさまざまな機関の協力によって本校の取組が支えられているのは言うまでもないが、とりわけ地元豊明市の強力なバックアップによって研究開発が成り立っている。研究開発計画の構想段階から豊明市長を始め、行政経営部長や市民協働課長、健康長寿課長など多くの市役所関係者と協議を重ねることで地元社会が求めている地域課題を正確に把握することができた。このことが地域課題解決に向けた研究テーマを設定することにつながり、またそれに基づいた探究学習プログラムや地域協働プログラムの研究開発を進めるコンソーシアム体制づくりにつながった。

(2) SGL 開発部会・SGL 実行委員会・運営指導委員会

SGL 開発部会の設置

コンソーシアムでの協働によって探究学習プログラムや地域活動プログラムを開発するための組織として、SGL 開発部会を設置した。校長、副校長、参与、教頭、SGL 事務局長、SGL 開発部主任、同副主任、事務員で構成され、毎週月曜日 2,3 限目の定例会とした。SGL 事務局長及び SGL 開発部主任と副主任が作成した企画案を元に協議し、その結果をコンソーシアムの関係機関に提示して協議することで、本校とコンソーシアムが情報を共有しながら研究開発を推進する体制づくりを進めた。

SGL 実行委員会の設置

SGL 開発部会がコンソーシアムの協力のもとで開発を進めていく探究学習プログラムや地域協働プログラムについて、生徒の実情に合わせて授業運営の方法を微調整したり、プログラムや授業実施後の点検評価をしたりする組織として SGL 実行委員会を設置した。副校長、参与、教頭、SGL 事務局長、SGL 開発部主任、同副主任、各担任、英語科教員 1 名、事務員で構成され、毎週金曜日 2 限目の定例会とした。特にルーブリック評価の作成については実行委員会で協議し、評価文の検討や自己評価の集計結果を分析することで、探究学習を通して生徒に身につけさせたい能力（主体性・協働性・探究力・発信力）についてどうような成長が見られるか、またどの観点の学びが不足しているかについて協議することで PDCA サイクルによる継続的な改善を図る体制づくりを進めた。

運営指導委員会の設置

SGL 開発部会での研究開発の内容や進捗状況、コンソーシアムを構成する機関との協力体制の実情、SGL 実行委員会での実施状況などを踏まえ、それぞれの専門的な立場から改善すべき点についての指導や学びを促進させるための助言をする組織として、運営指導委員会を設置した。下に示した学識経験者、学校教育に専門的知識を有する者、教育学研究者、有識者、関係行政機関の職員を含む 5 名で構成され、各学期に 1～2 回程度開催することとした。

氏名	所属・職
渥美榮朗	元愛知県教育長
寺田志郎	元愛知県教育委員会学習教育部長、 元県立高校長会会長
久野弘幸	名古屋大学大学院准教授
月岡修一	豊明市議、学校評議員
藤井和久	豊明市役所行政経営部長

（3）海外交流アドバイザーと地域協働学習実施支援員の役割

海外交流アドバイザーの配置

海外交流を通じたグローバルな視点での学びを促進させる手法として海外研修の実施や海外在住高校生などとのオンライン交流などが考えられる。そのような学びを開発・実践する際の助言者として海外交流アドバイザーを配置することになり、名古屋大学大学院国際開発研究科特任助教の古藪真紀子氏にその役割を依頼した。今年度は新たな海外研修の開発に重点を置いて外国人市民と

の共生と高齢市民の健康福祉に関する現地フィールドワークの企画開発に関して助言にあたるとともに、海外研修の事前研修や事後研修の企画と実施についても支援するという役割を果たすことになった。

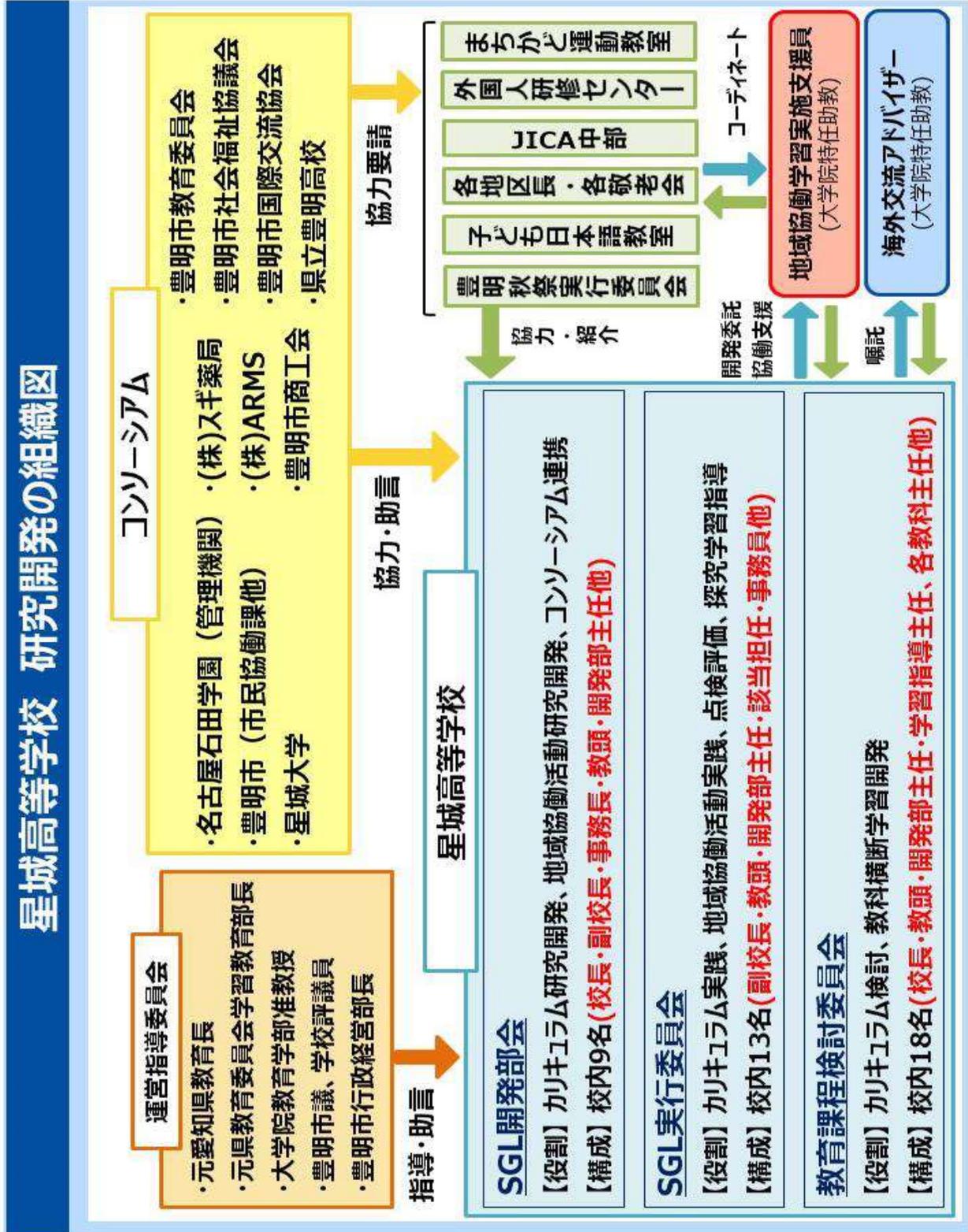
地域協働学習実施支援員の配置

地域との協働による探究的な学びを総合的な探究の時間を中心とした授業でどのように実践するかについての指導や助言をし、またその学びに必要な関係団体の協力をコーディネートする支援員として地域協働学習実施支援員を配置することになった。今年度は海外交流アドバイザーとの兼任で古藪真紀子氏にその役割を依頼し、総合的な探究の時間での探究学習プログラムの研究開発支援と地域協働プログラムの実践支援にあたることとなった。毎週金曜日 5,6 限に定例で企画会議を開き、土曜日に実施する総合的な探究の時間の年間授業計画の作成や各授業内容について協議することになった。また授業では授業担当者の一人として継続的に探究学習プログラムに関わることで、授業内容の開発と授業実践の両面から地域との協働による探究的な学びのカリキュラム研究開発を支援してもらうことになった。

(4) 組織図

グローバル型地域協働推進校である本校と地域協働に取り組むコンソーシアム、運営指導委員会、地域協働学習実施支援員、海外交流アドバイザーの役割を明確にすることが求められる。まず、コンソーシアムは地域協働について本校に直接的に開発協力したり、助言を与えたりするとともに、地域協働プログラムの開発に協力してもらえる関係機関に協力を依頼する。地域協働学習実施支援員はその関係機関と本校が研究開発をすすめられるようにコーディネートし、探究学習プログラムや地域協働プログラムに反映させられるように支援する。海外交流アドバイザーは海外研修プログラムの開発を支援し、行程の企画の中心的な役割を果たす。運営指導委員会は研究開発の全体的な状況を定期的に把握し、必要に応じて星城高校の SGL 開発部会等に指導や助言をする。

コンソーシアムと運営指導委員会、関連団体、地域協働学習実施支援員、海外交流アドバイザーが本校と協力体制を築くことにより、探究学習プログラムと地域協働プログラムの研究開発が円滑に進み、生徒が安心して取り組める探究学習につながることを期待する。開発担当者と地域の協力者との個人レベルで開発できるものもあると思われるが、開発企画はすべて組織の研究開発プロセスに上げる仕組みにすることで、持続可能なプログラムを研究開発していきたい。



3. 研究開発の内容【 SGL 地域協創学Ⅰ】

(1) 総合的な探究の時間【SGL 地域協創学Ⅰ】

グローバル型地域協働推進校として、総合的な探究の時間の中で地域との協働による探究的な学びに生徒が取り組めるように研究開発することにした。1年次には「SGL 地域協創学Ⅰ（2単位）」、2年次には「SGL 地域協創学Ⅱ（2単位）」、3年次には「地域協創学Ⅲ（1単位）」の合計5単位を教育課程表に組み入れた。

次ページに示した教育課程表の通り、仰星コースと特進コースでは修得する科目や単位数などコースによって異なるところが多数存在するが、総合的な探究の時間については「SGL 地域協創学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が共通となり、学習内容も同一のものとなる。

1年次の総合的な探究の時間「SGL 地域協創学Ⅰ（2単位）」では、仰星コースが59名2クラス、特進コースが111名3クラスの合計170名5クラスが対象生徒となる。「SGL 地域協創学Ⅰ」での探究的な学びは、外国人との共生について学ぶ多文化共生アプローチ、高齢市民の健康福祉について学ぶ健康福祉アプローチ、論理的思考力を身につけるコミュニケーション力アプローチの3つのアプローチから成る。そこに地域協働活動の実践とポスターセッション形式による提言発表を加えた5つの項目で構成される探究的な学びのカリキュラム研究開発を行った。下の表はそれらの項目をそれぞれどの時期の授業の中に組み入れたのかをまとめたものである。

「SGL 地域協創学Ⅰ」月別実施概要

実施項目	実施期間											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
多文化共生アプローチ	○	○	○	○				○	○	○		
健康福祉アプローチ			○	○	○			○	○	○		
コミュニケーション力アプローチ	○	○	○	○							○	○
花溢れる街づくりプロジェクト						○	○					
地域協働活動					○	○	○	○	○	○	○	○
提言作成とポスターセッション								○	○	○	○	○

令和元年度入学生教育課程

星城高等学校令和元年度入学生 仰星コース・特進コース教育課程表

教科	科目	標準 単位	第1学年		第2学年				第3学年					
					文系		理系		文系			理系		
			仰星	特進	仰星	特進	仰星	特進	仰星	仰II	特進	仰I	仰II	特進
国語	国語総合	4	5	5										
	現代文B	4			4	3	2	2	3	3	4	2	2	2
	古典B	4			4	3	2	3	4	4	4	2		2
	国語演習	4								4				
地歴	世界史A	2		2			2							
	世界史B	4			3	3			4	4	4			
	日本史A	2		2										
	日本史B	4			3	3	3		4	4	4	2		
	地理B	4					3					2		
歴史演習	2								2					
公民	現代社会	2	2			2		2			2			2
	現代社会演習	2							2	2				
数学	数学Ⅰ	3	4	4										
	数学Ⅱ	4			4	4	5	4						
	数学Ⅲ	5					1				7	7	5	
	数学A	2	3	2										
	数学B	2			2	2	2	2						
	数学演習	3									3			3
	数学演習Ⅰ	4							3		3	5		
	数学演習Ⅱ	3							3					
理科	物理基礎	2	2	2										
	物理	4				2	3				4	4	4	
	化学基礎	2			2	2	4	2	2					
	化学	4					2				4	4	4	
	化学演習	2								2				
	生物基礎	2	2	2										
	生物	4				2	3				4	4	4	
	生物基礎演習	2							2					
生物演習	2									2				
地学演習	2									2				
保健 体育	体育	7~8	2	3	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2
	保健	2		1	1	1	1	1	1	1		1	1	
芸術	音楽Ⅰ	2	2	2										
	書道Ⅰ	2		2										
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3	4										
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			4	5	4	3						
	コミュニケーション英語Ⅲ	4							4	4	5	4	4	4
	英語表現Ⅰ	2	2	3										
	英語表現Ⅱ	4			2	3	2	3	3	3		2	2	
	英語演習	3									3			3
	総合英語	3								4			2	
家庭 情報	家庭基礎	2	2							2				2
情報	情報の科学	2	2			2	2							
SGL 語学	SGL英語Ⅰ	1	1											
	SGL第2外国語	1			1	1	1	1						
	SGL英語Ⅱ	1							1	1		1	1	
	SGL英語	1									1			1
教科の単位数合計			32	32	33	33	33	33	34	34	34	34	34	34
総合的 な探究 の時間	武道Ⅰ	3~6		1										
	SGL地域協創学Ⅰ		2	2										
	SGL地域協創学Ⅱ				2	2	2	2						
	SGL地域協創学Ⅲ								1	1	1	1	1	1
特活	ホームルーム活動	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
単位数合計			35	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36

(2) 探究学習プログラム①

SGL 地域協創学Ⅰの授業は4月20日に始まった。開講式では小浮正典豊明市長より講演があり、「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクトは豊明市の地域課題解決につながる取組であり、生徒たちの活動に期待する」と激励を受け、1学年仰星コースと特進コースの合計170名全員が「豊明市地域協働サポーター」の認定を受けた。

4月から6月上旬まで、多文化共生アプローチでは多文化共生学講演とロジカル・フレームワーク（多文化共生学基礎）の学び、コミュニケーションアプローチではロジカル・シンキング（ディベート基礎）の学びによる授業を計画した。多文化共生学講演①では（株）ARMS 代表取締役会長の濱島正好講師より日本における外国人労働者の現状と課題及び世界における外国人労働者の現状と課題についてグローバルな視点で考える授業を実施した。多文化共生学講演②ではNPO 法人プラス・エデュケート理事長の森頭子講師より外国人児童への日本語指導と学習支援の現状と課題について豊明市の地域課題と関連づけて考える授業を実施した。ロジカル・フレームワーク（多文化共生学基礎）①～③では地域協働学習実施支援員の古藪真紀子氏より日本における外国人市民の現状と共生を推進する各地での取組事例から学び、外国人市民との共生を推進するアイデアをそれぞれ考え、それらを発表し合うことを通して全体で共有する授業を実施した。ロジカル・シンキング①～③では東海ディベート連盟の森嶋計詞講師より競技ディベートとは何かを学び、肯定側と否定側に分かれて立論⇒質疑⇒第一反駁⇒第二反駁⇒判定・講評というディベートの流れを理解する授業を実施した。

1 学期(4月～8月)の授業内容

実施日	時間帯	授業内容
4月20日 (土)	9:05～ 12:55	開講式 小浮正典市長による講演 豊明市地域協働サポーター認定
		ロジカル・シンキング（ディベート基礎）① 森嶋計詞講師
		ロジカル・フレームワーク（多文化共生学基礎）① 古藪真紀子講師
5月18日 (土)	9:05～ 12:55	多文化共生学講演① 外国人労働者の現状 (株)ARMS 濱島正好講師
		ロジカル・シンキング（ディベート基礎）② 森嶋計詞講師
		ロジカル・フレームワーク（多文化共生学基礎）② 古藪真紀子講師

6月1日 (土)	9:05 ~ 12:55	多文化共生学講演② 外国人児童支援 NPO プラス・エデュケート 森頭子講師
		ロジカル・シンキング (ディベート基礎) ③ 森嶋計詞講師
		ロジカル・フレームワーク (多文化共生学基礎) ③ 古藪真紀子講師
6月15日 (土)	9:05 ~ 12:55	健康福祉学講演① 高齢者の健康福祉 (株)スギ薬局 望月直人講師
		ロジカル・シンキング (ディベート基礎) ④ 森嶋計詞講師
		ロジカル・フレームワーク (多文化共生学基礎) ④ 古藪真紀子講師
7月6日 (土)	9:05 ~ 12:55	健康福祉学講演② 豊明市の高齢者健康福祉 豊明市長 小浮正典講師
		ロジカル・シンキング (ディベート基礎) ⑤ 森嶋計詞講師
		ロジカル・フレームワーク (多文化共生学基礎) ⑤ 古藪真紀子講師
7月19日 (金)	13:00 ~ 16:50	健康福祉学講演③ 認知症理解と大金星体操講習 豊明市健康長寿課
		探究班 (28班) グループ編成とグループ内役割分担決定
8月22日 (木)	10:00 ~ 11:00	健康福祉学講演④ 認知症サポーター養成講座 豊明市健康長寿課・豊明市市民協働課

6月中旬から8月まで、健康福祉アプローチでは健康福祉学講演の学び、多文化共生アプローチではロジカル・フレームワーク (多文化共生学基礎) の学び、コミュニケーション力アプローチではロジカル・シンキング (ディベート基礎) の学びによる授業を計画した。健康福祉学講演①～④では(株)スギ薬局エリアマーケティング推進室長の望月直人講師より世界における高齢社会の現状と課題及び日本や豊明市における高齢社会の現状と取組事例を学び、豊明市における高齢者健康福祉に関する今後求められる活動について豊明市長の小浮正典講師と一緒に考え、豊明市健康長寿課より大金星体操講習と認知症サポーター養成講座を通して高齢者の健康福祉について理解を深めることの大切さを学ぶ授業を実施した。ロジカル・フレームワーク④・⑤ではSDGsについての理解を深め、17の持続可能な開発目標に沿って自分たちに何ができるかを考える授業を実施した。ロジカル・シンキング④・⑤では実際に競技ディベートを実践するこ

とを通して論理的思考力を高めるための授業を実施した。

(3) 探究学習プログラム②

9月からは1学期での学びを踏まえて、新たな地域協働活動を企画し、生徒が外国人市民や高齢市民との協働を体験できる活動に取り組むことになった。「花の街とよあけ」からヒントを得て「花溢れる街づくりプロジェクト」と名付けた。外国人市民と高齢市民と協働で豊明市内5カ所に新たな花壇をつくり、そこに一緒に花を植えて、それを協力して維持管理することで花溢れる街になり、多くの市民が明るく笑顔になる地域協働活動にしたいと考えた。

9月から10月までの授業内容

実施日	時間帯	授業内容
9月7日 (土)	9:05 ~ 12:55	花溢れる街づくりプロジェクト 花壇作成場所の現地調査
9月21日 (土)	9:05 ~ 12:55	花溢れる街づくりプロジェクト 敬老会などと花壇作成方法の協議
10月5日 (土)	9:05 ~ 12:55	花溢れる街づくりプロジェクト 花壇作成と土入れ作業、花苗注文
10月19日 (土)	9:05 ~ 12:55	花溢れる街づくりプロジェクト 地域住民との花植え協働活動

9月7日の授業では仰星コースと特進コースの合計28個の探究班は豊明団地7班、三崎水辺公園6班、前後駅前スクエア7班、大蔵池公園7班、はざま公園1班に分かれ、花壇作成に向けての現地踏査を行った。土質や周辺環境の確認、必要となる作業の想定、外国人市民又は高齢市民との協働のイメージづくりなど、生徒による地域協働活動の企画がスタートした。

花壇があっても花がなく草でいっぱいになっているところや元々花壇ではない所で、なおかつ人通りが多く目に付くところを花壇作成場所として選んだ。豊明団地は自治会とベトナム人会、三崎水辺公園は三崎区敬老会、大蔵池公園は桜ヶ丘区敬老会、前後駅前スクエアは前後区敬老会、はざま公園は桶狭間区敬老会の協力を得て、花壇づくりに協働で取り組むことになった。また、各探究班にはそれぞれ最大3万円の花壇作成予算を設定し、該当地区の地域住民と話し合いながら予算内で花壇作成に取り組むように指示した。

9月21日の授業では、各探究班又は各花壇作成場所の代表生徒が各地区の敬老会や自治会、外国人会などと打合わせ会を開いて協議した。どのような花壇を

作成するか、何の花を植えるか、土をどのように入れ替えるか、花壇ブロックは必要か、どの店で購入するか、いつ作業するかなどについて話し合った。また、10月5日に花壇を作成するという予定と10月19日に花溢れる街づくりプロジェクトを開催して花を植えることを伝え、チラシを用いて多くの方に参加してもらいたい旨を生徒が各地区での打合せ会や茶話会で地域住民に直接お願いした。生徒たちは初めて会う高齢市民や外国人市民とのコミュニケーションに苦労していたように見えた。恥ずかしさがあったり、話題に困ったり、言葉を理解しにくかったりと、高齢市民や外国人市民と交流する際の難しさを体感したのと同時に、協働で何かに取り組むためには地域の方々とのコミュニケーションが重要であることを痛感した場面でもあった。

花溢れる街づくりプロジェクトのチラシ

Rainbow Bridge Project !

はな まち
花あふれる街づくりプロジェクト

令和元年 10月19日(土) 9:00~

<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 二村台地区 <p style="text-align: center; margin: 0;">『 豊明団地 』</p> <p style="text-align: center; margin: 0;">・商店街&階段付近 《7カ所の花壇づくり》</p> </div>	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 前後地区 <p style="text-align: center; margin: 0;">『 前後駅 』</p> <p style="text-align: center; margin: 0;">・改札前下段広場 《7カ所の花壇づくり》</p> </div>
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 三崎地区 <p style="text-align: center; margin: 0;">『 三崎水辺公園 』</p> <p style="text-align: center; margin: 0;">・北側道路沿い斜面 《6カ所の花壇づくり》</p> </div>	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 塚ヶ丘地区 <p style="text-align: center; margin: 0;">『 大蔵池公園 』</p> <p style="text-align: center; margin: 0;">・遊歩道横花壇付近 《7カ所の花壇づくり》</p> </div>
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 橋狭間地区 <p style="text-align: center; margin: 0;">『 はざま公園 』 ・入口付近 《1カ所の花壇づくり》</p> </div>	

シルバー世代・外国人児童・高校生が地域の皆さんと
花があふれる明るい地域の街づくりを推進します！

主催：星城高等学校（文部科学省指定 地域協働推進校）

協力：豊明市・教育委員会・(株)スギ薬局・(株)ARMS・星城大学・豊明高等学校・社会福祉協議会・国際交流協会・NPO 法人プラス・エデュケート

参加希望&問合せ：星城高等学校内 SGL事務局【春木】
TEL：0562-97-3111（代表）

*本プロジェクトは文部科学省指定「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の取組です。

10月5日の授業では各探究班が花壇作成に必要なものを購入し、花壇づくりに取り掛かった。花の苗や培養土の購入は花壇作成場所の近くにある花屋さんや花農家さんに協力していただいた。また、生徒からの相談や質問への対応や探究班ごとの注文にも対応していただいた。適切な花苗の数や培養土の量、土の混ぜ方などは生徒にとっては未知のことで、専門家から助言をもらいながら、尚且つ予算内で収まるように金額も考えながら必要なものを購入することは生徒たちにとって良い経験となった。

この日の花壇づくりで最も大変だったのは草抜き作業であった。長い間手入れされていなかった場所も多く、土が固くて草を根から引き抜くことは容易ではなかった。生徒たちは準備した鍬や鎌などの道具を用いて作業をしたが、使い慣れない農具の扱いにかなり苦労していた。また、花壇ブロックが必要な場所ではブロックを真っすぐに並べる作業に生徒たちは苦戦していた。敬老会の方々や花壇づくりに参加していた場所では、ロープを張ってラインが見える状態で花壇ブロックを並べる方法を教えてもらい、目の前で丁寧な作業をする高齢市民の方々の知恵や経験が大切であり、学ぶべきことが多いことを生徒たちはしみじみと感じる機会となった。

10月19日の花溢れるプロジェクト実施に向けて、生徒たちは授業時間以外にも現地に出向き、花植えができるように花壇の準備を重ねた。その結果、プロジェクト前日までは各場所での準備が整った。花溢れる街づくりプロジェクトの当日は豊明団地、三崎水辺公園、前後駅前スクエア、大蔵池公園、はざま公園の5カ所を併せて各地区の高齢市民約70名とベトナム人市民約30名、豊明高校の生徒約10名が集まり、各花壇への花植えを生徒たちと協働で実施した。

ベトナム人の子どもたちと仲良くなり楽しそうに活動する生徒や高齢市民と気さくに話をしながら花植えを進める生徒も多くいた。一方で話しかけられないとコミュニケーションが取れないという生徒もいて、参加した方々の積極性に助けられた面も見られた。いずれにしても地域に住む方々とのコミュニケーションが共生や協働の基盤であることを生徒たちが体感する一日となった。

生徒たちの継続的な努力、コンソーシアムの協力、外国人市民と高齢市民との協働によって色鮮やかな花壇が市内5カ所で完成した。地域の人々との協働で花壇をつくりあげた達成感や充実感から、生徒たちの表情は気持ちのよい笑顔で溢れていた。またそれは本校生徒だけではなく参加した地域の方々も同様であった。初めてのプロジェクトであったため、関係機関への許可申請や敬老会などへの協力依頼など担当教員が段取りした部分も少なからずあった。生徒が主体性を持ってやるべきこと、教員がサポートや助言をしてよい内容とその方法、探究的な学びの観点など今後改善すべき内容も今回の実践を通じていくつか見

えてきた。それらの課題を改善につなげていかなければならないが、花溢れる街づくりプロジェクトは花を植えるという活動自体が参加者を笑顔にし、結果として自分たちが生活する場所が花で溢れて明るくなるという点で、本質的に地域との協働による探究的な学びに適した題材であり、市民協働を継続的に推進し、発展させるものになっていく可能性を感じた。

今後、植えた花への水やりや草抜きなどの花壇の管理を通じて、本校生徒と地域の方々との交流がこれまで以上に盛んになるように導くことが課題の一つであり、その交流が来年度の花溢れる街づくりプロジェクトにつながっていくと思われる。花壇づくりの最終工程は生徒たちがデザインした立て看板を花壇に設置することであった。まだ本プロジェクトを知らない地域の方々にも広く知ってもらい、来年度のプロジェクトには今年よりもより多くの地域の方々に参加してもらえるように、生徒たちが知恵を出して企画することに期待したい。

(4) 探究学習プログラム③

11月からは授業は、2月15日のポスターセッション形式での発表に向けて、各探究班で花溢れる街づくりプロジェクトの総括とこれまでの学びと経験をもとにした新たな地域協働活動の提言づくりが主な内容であった。ポスターセッションという言葉は初めて耳にする生徒がほとんどであったため、過去にSGHで作成したポスターを見せたり、SGH甲子園での発表動画を見せたりすることで、生徒はどのようなポスターを作成し、どうやって発表するかのイメージを持ち、新たな地域協働活動の提言に向けて探究することになった。

11月から3月までの授業内容

実施日	時間帯	授業内容
11月9日(土)	9:05~12:55	花溢れる街づくりプロジェクトの総括と地域協働活動の提言づくり
11月16日(木)	9:05~12:55	花溢れる街づくりプロジェクトの総括と地域協働活動の提言づくり
12月7日(土)	9:05~12:55	セッション用のポスター作成
1月18日(土)	9:05~12:55	ポスター作成と発表原稿作成
2月1日(土)	9:05~12:55	ポスターセッションの練習とポスター・発表原稿の修正
2月15日(土)	9:05~12:55	ポスターセッション形式での発表会
3月14日(土)	10:00~11:00	代表班による成果発表会



各探究班には総括と提言づくりに向けて、以下の指示を出した。

●花溢れる街づくりプロジェクトの総括について

- ・プロジェクトの目的を示す
- ・どのような花壇をどのようにつくったかを示す
- ・プロジェクトを通して何を学び、何が課題として残ったのかを示す

●新たな地域協働活動の提言について

- ・外国人市民との協働、高齢市民との協働、又は両市民との協働のいずれかを示す
- ・根拠となるデータなどのエビデンスを示す
- ・コンソーシアム関係機関との協働を意識して地域協働活動を企画する
- ・提言だけでなく実践可能な案を企画する

仰星コースと特進コース併せて28班がそれぞれに外国人市民との共生や高齢市民の健康福祉について探究し、調べたデータを基に独自のアイデアを考え、新たな地域協働活動の提言としてまとめ上げた。ポスターセッションの実施方法は、第1発表グループが仰星コース1、2組の10班、第2発表グループが特進1組と2組前半の9班、第3発表グループが2組の後半と3組の9班の3つのグループに分け、各グループの9又は10班が同時に発表を行い、それを第1発表グループ→第2発表グループ→第3発表グループの順番で実施した。各探究班の発表時間は6分間で、その後3分間の質疑応答を加えて約10分間の発表とした。生徒は自分たちの発表以外の時間帯には他の探究班の発表を手分けして聴き、グループ内でどの発表が最も良かったかを評価する生徒間投票を取り入れた。これによって審査員により選出される優秀班ではなく、生徒による評価のみで優秀班を選出する仕組みとなった。

2月15日にポスターセッション形式で各探究班による発表を行った。ほとんどの生徒にとって初めての経験となったポスターセッションでは、多くの生徒が原稿を見ずに堂々と発表し、質問にも一生懸命答える様子から、生徒たちの発表力向上が見られたように思う。コミュニケーション力アプローチとして、ポスターセッション形式での発表は生徒の発表力を高める有効な手法であった。

しかし、探究の深さがどの程度であったのかについて考えると、現状分析やエビデンスの収集は浅い部分が見受けられたのも事実である。関係機関を訪れて地域課題について直接聞き取り調査したり、地域住民へのアンケート調査を行ったりするようなことがあまり見られなかったのは、次年度に向けた大きな課題と言える。

各探究班の提言内容

班名	発表タイトル&提言概要	班名	発表タイトル&提言概要
仰星 1-A	高齢市民と外国人市民が輝けるまちづくり 提言：LTCプロジェクト	仰星 1-B	豊かで明るい豊明市へ 提言：ウォークラリー、劇、コンサート
仰星 1-C	未来へのバトン！プロジェクト 提言：市民 Festival	仰星 1-D	第7世代！豊明まちづくり 提言：豊明再発見ツアーと食文化交流
仰星 1-E	Flower Festival Project 提言：花祭り	仰星 2-A	TOYOAKE' s キッチン 提言：サツマイモと米の料理開発
仰星 2-B	焼き芋大作戦！！ 提言：外国人市民との焼き芋交流会	仰星 2-C	高齢者と共に生きるこれからの社会 提言：体操、料理教室、登下校見守り
仰星 2-D	What We Can Do for Foreign Citizens? 提言：外国人児童との交流会	仰星 2-E	理解と繋がりを深めよう！ 提言：夏祭り改革
特進 1-1	楽しく健康寿命をのぼそう！ 提言：レク式体力チェック	特進 1-2	街を健康にしよう！地域共力を通して 提言：クリーンフェスティバル
特進 1-3	百人一首認知症予防 健康寿命をのぼす 提言：星城百人一首大会	特進 1-4	料理で広げる多文化共生の輪 提言：外国人市民対象料理教室
特進 1-5	高齢者・外国人市民との共生・協働・協創 提言：高齢者・外国人市民との料理教室	特進 1-6	高校生 VS 高齢者・外国人市民 提言：星城高校文化祭にて伝統遊びで対決
特進 2-1	The Glocal Partnership Project 提言：Let' s Challenge the Guinness	特進 2-2	れいんぼーブリッジ 提言：外国人児童との交流会
特進 2-3	多文化共生を目指して 提言：外国人市民の地域運動会への参加	特進 2-4	豊明市民と未来を照らす街づくり 提言：夏祭り灯籠プロジェクト
特進 2-5	外国人市民がよりよく暮らせる街づくり 提言：高校生による日本語教育支援	特進 2-6	繋げよう世代の輪 提言：福祉体育館での多世代交流スポーツ
特進 3-1	共に歩む新たな一歩 提言：キャッチ！ゴミも気持ちも健康も	特進 3-2	豊明市から始まる First Step 提言：豊明市非難フェス
特進 3-3	小さな幸福 with small happiness 提言：多文化・多世代もちつき交流会	特進 3-4	光あふれる未来への道 提言：夏祭りペットボトルアート
特進 3-5	多文化共生・多世代交流学園祭を作ろう 提言：外国人市民・高齢者参加型学園祭	特進 3-6	世代を超えた交流ジェネレーションネクスト 提言：認知症予防支援活動

～豊かで明るい豊明市へ～

Made By 伊藤麻由佳
山本雄大 有本真菜 岡本麻琳
宮村碧、山本真菜

10 10月10日(水) 10時～12時

11 11月10日(木) 10時～12時

17 17日(土) 10時～12時

行った活動

- スギ薬局大金星体操
- 日本語教室ボランティア
- 花植え活動

市民の声

- 町の特産を手伝って欲しい
- 挨拶をして欲しい
- 街で見かけたら話しかけて欲しい
- バスの数を増やして欲しい

活動を通して気が付いた事

1. これらの活動は若者にも大変
2. 高齢者の方は高校生と話したい

今回、私達がこの「花植え活動」をしたことで、高齢者市民と外国人市長のつながりが増えたり、関係がよくなりました。

今後やるべき事はこの関係をよりよく、深いものにする事です。

私達に出来ること

1. フォークラリー
→ 私達も高齢者と一緒に参加しつつ、参加する
2. ショート劇やコンサート
→ 病院や老人ホームで行い高齢者の方と楽しむ

高齢者の方の認知症予防になります。
また、外国人市民の方も参加することによって豊明市全体が楽しく明るく、そして輝くことが出来ます。

高齢者市民と外国人市民が輝けるまちづくり

伊藤17年1組A班
遠藤温人 中田悠汰 山本雄大 有本真菜 岡本麻琳

Introduction

前後で花植え活動を行った。
花植え活動の目的…
高齢者市民や外国人市民との関わりを持つこと
二者が関わりを持つこと

Methods

＜花植えの手順＞

- 1.花壇の計測
- 2.植えるものの確定
- 3.土と苗の注文
- 4.草抜き、土入れ
- 5.花植え
- 6.水やり

＜工夫＞
高齢者市民や外国人市民に分かりやすいように説明したこと。敬語などで活動の宣伝をしたこと。

Results

結果…高齢者市民はとても元気がありとてもアクティブ
笑顔であふれていた
高齢者市民はこのような活動を持っていいという感じ
反省…上手く連絡がとれていない
外国人市民が少ない

SDGs：住み続けられるまちづくりを。
：人や国の不平等をなくそう
取り組み 文化交流会やイベントを開く。

LTCプロジェクト

場所：公民館

時期：3ヶ月おき 第1、第2土曜日 午前11時～午後4時

内容：高齢者市民と外国人市民のそれぞれの母国の伝統料理をシェアする。また、伝統文化を伝え合い、交流を深める。

[けやきテラス]

第7世代！豊明まちづくり

仰星1年1組 D班 黒川純加 谷澤和樹 長谷川夢美 吉崎直宏 長谷川涼



- 1.探す→2.草抜き→3.プロック設置→4.土入れ→5.花植え
 - ・活動を通して…地域の色々な世代の方との関係は温かいもの
 - ・改善点…話し掛けて下さった方を当日招待出来なかった
- ⇒宣伝活動を積極的に行い、もっと密接な関係を築く
⇒関係が薄れてきている今だからこそもう一度関係を持つ



Proposal 食・文化 交流

Plan 1 豊明再発見ツアー！

駅or団地→→→文化交流→→→公園

集合 など…



豊明ひきずりを作って
参加者で食べる！

Plan 2

食文化交流！

・星城高校文化祭

・参加してもらい

高齢者の方&外国人市民の方にも出店
を出してもらい交流する



未来へのバトン！プロジェクト

花植え活動

仰星1年1組C班 加藤葵風 松尾凌志 山口晋太郎
大塚健理 杉浦莉里香 松井鈴音

目的

花植え活動を通して高齢者の方と積極的にコミュニケーションを
取ることで、地域が抱える問題のヒントを得る。

活動の様子

花植えに向けて準備！



完成！



地域の方と花植え
①土を掘り起こし、培養土
を入れて植える
②花壇プロックで囲定する

地域の方とパシヤリ
手伝って頂いた

振り返り

事前に地域の方々にこのような活動が
あると知ってはいなかったため、参加された方が少なかった。

提言

SDGs

10. 人と国の不平等をなくそう 国と世代を越えた市民Festival



豊明市 外国人在住者
性別人口割合

工夫①
ブラジル、ベトナム、
中国
「特色」が光る
出し物、体験、店

工夫②
公民館サークルなどに
参加している高齢者に
よる、出し物、体験、店

工夫③
豊明市内の小・中学校の
クラブ、部活動などに
よる出し物・展示・体験

このフェスティバルにより地域コミュニティが広がり、
大規模災害時における互助・共助に役立たせることができる
多文化・多世代の融合により未来へのバトンタッチができる

TOYOAKE'S キッチン

仰星 1-2 班員:伊豆原,川原,小山,新村,長坂,水谷

<Introduction>

- 場所:はざま公園
- 目標:人があまり来ない

子どもたちが遊んでくれるように



<Methods>

- 花種:400x70cmが1つ
300x50cmが1つ
 - 現地の人と共に買い出し・花植え
- ◎現地の人が差し入れをくれました◎

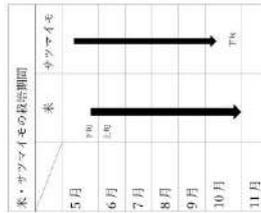
<Results>

- 工夫点:遊びの妨げにならない場所に
: 花の選び方
- 反省点:日中の日当たりが良くない
: 花が少ない



<Proposal>

- 豊明市の特産品:米,サツマイモ
- 農業体験で米とサツマイモを作る
- ↓
- 収穫後・スイートポテト
・さつまいもご飯
・お米パンケーキ



高齢者・外国人と交流する場所
として学校の花壇を使用!

「多文化・多世代交流」
を達成したい

Flower Festival Project

仰星コース1年1組E班 大瀬政宣 江辺梨々花 青山隆希 金澤秀星 井上尚梨 鈴木沙弥

目的

- ・高齢市民と外国人市民やボランティアの方のとふれあい
- ・前後駅の環境改善によるきれいな町づくり
- ・これからの活動に活かす

過程

現地での採寸と
花壇との打ち合わせ



結果

花壇との関係性を
強く持つことが出来た



気づいたこと

- ・花を植えている人の様子→喜んでいた
- ・花壇を通じて楽しさを知ることになった

恵かった点

- ・外国人や高齢者と交流ができなかった

提言



花をみんなで植える

屋台の設置

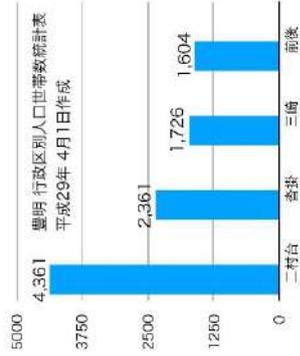
夜祭りや盆踊り

高齢者のため健康診断

>>>>沢山の人の交流

→問題発見!

地区別人口



高齢者と共に生きるこれからの社会

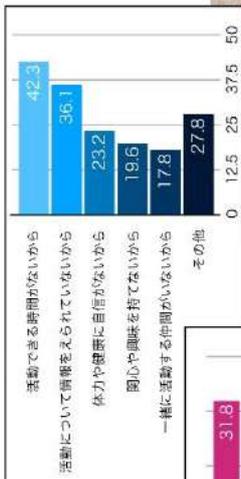
仰星1年2組C班 班員：森祐乃 佐藤百恵 近藤舞佳 村上暢 中島悠斗 八田眞勇

bad point

- 希望力の面では、事前に地域のかたへの呼びかけが十分にできておらず、自分たちが思っていたより参加人数が少なかった。
- 他校との交流があまりなかった。

good point

- 水でくいだきった高齢者市民の方々と話をしながら作業ができた。
- 花を植えた場所が綺麗になり、市民にとって快適になった。



SGL活動 焼き芋大作戦!!

仰星1年2組 8班 ・橋本悠 ・加藤 太基 ・森田 大基 ・安藤 梨乃 ・大橋 知佳 ・黄 耀音

Introduction

豊明市でバトナムの子供と高齢者の方々が喜んでくれることを期待して活動に取り組んだ



一緒に花壇を作った様子
バトナムの子供たちと

Methods

花を植える前の花壇
花 ・シクラメン(紫いパンク)
・パンジー(白)
花壇の面積
2.5×2.5の6.25[m²]
かかったよりもななく、
注文した土が足りなく、
追加注文した
特に大変だったのは
店とのやり取りで、
戻った内容があり、
何回も確認した



Results

- 苦労したこと
- ・外国人の方とのコミュニケーション
 - ・草抜き
 - うねりがあったこと
 - ・花壇が花できれいになった
 - ・田地の住民が喜んでいった
 - ・外国人の子が笑顔になった
 - ・外国人と話せた



後日見た花壇の様子



proposal

私たちが次に考えたものは名付けて『焼き芋大作戦!』

みんながサツマイモを育て、イモを掘り豊明市の落ち葉や草取りをして、それを使って焼き芋しようという企画

おまわり

- ・サツマイモを育てることで、体を動かす言葉を使わずに、海外的な子供と一緒になる
- ・豊明市が綺麗になる

お準備すること

- ・サツマイモの教で焼き芋を出来るか聞く
- ・豊明市の市民情報広める
- ・サツマイモの土地を探して相談し、
- ・サツマイモの草取りをする
- ・サツマイモの情報を広める

街を健康にしよう！ ～地域共力を通して～

特選1組2班 後藤涼太 斎菜遥香 黒田智也 松下聖奈 峯尾旭 鈴木杜和



＜はじめに＞

How to: 地域活性化のため花畑を。した。

Result: 花畑を作れたのはいいが、
こみがたくさん落ちていたのが分かった。

＜結果を受けての提言＞

- ※「クリーンフェスティバル」 & 「ゴミ捨て講座」の開催
- ※公園を重点的に掃除する

概要

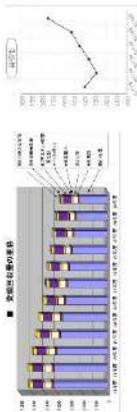
- ・クリーンフェスティバル: 三ヶ月に一回
- ・ゴミ捨て講座: 二週間に一回 (年24回開催)
- ・ゴミ捨て分別アプリ作り



実行するに当たって

- ・多くの協力を得る必要があり、多様な世代の参加が望ましいが、主にお年寄りや外国人児童を対象とする。
- ・協力者とのコミュニケーションを図ることが重要となる。

外国人児童の参加

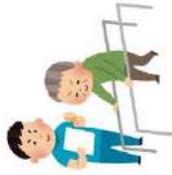


＜まとめ＞

- ・以上の点より、活動を通して私たちは、街一帯が丸となってキレイにすることで、新しく協調性を生み出すのにつなげられると気づいた。このことを生かして、地域の共生に協力したい。
- ・また、こういった経験が次につながるように、外国人の方々の交流を日常生活の間でも深め合っていきたいと思う。

楽しく健康寿命をのばそう!!

特選1組1班 松田七海 伊藤綾海 鈴木咲奈 吉川侑士朗 河村橋平 三浦颯士



今までの活動は??

「花溢れる街づくりプロジェクト」

>>> 地域の方と仲を深めやすい機会をつくる。

今後どのような活動をしていくか??

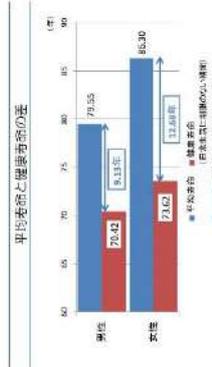
レク式体カチエック種目

- 1 基礎体力測定 (基礎体力測定)
- 2 10m障害物歩行 (視覚・聴覚・空間認知)
- 3 フランクリンボールゲーム (認知・記憶・反応・集中)
- 4 タオル折り (認知・空間認知)
- 5 ストロー (認知・空間認知)
- 6 ツー・ステップ (認知・空間認知)

「楽しみながら
体力チェックをしよう!」

- ・地域の方との仲を深める
- ・健康寿命を伸ばす
- ・子どもも参加できる

なぜこの活動を行うのか??



「少しづつ生活が
不自由になってしまふ」

- ・介護給付費が多くなる
- ・社会保険負担がかかる

〈ねらい〉

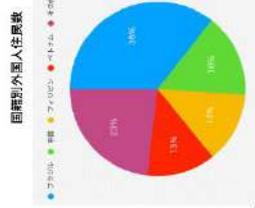
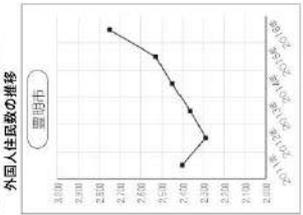
- ・レクすることで小さい子供達も参加出来るようにする。
- ・健康に気をかけてもらうきっかけを作る。
- ・地域の方との交流を深めつつ、健康寿命をのばすきっかけ作りをする。

料理で広げる多文化共生の輪

4班 水野深大 若田桃果 上村静介 池田高生 斎藤菜穂 堀田紗希



豊明市の方々と一緒に花植えをしました
今回のことを通じて、市長の方々と触れ合うことができました



現在...

豊明市は外国人住民が年々増加しています
そこで私たちは外国人の方達とも触れ合
い、文化の輪を広げたいと思いました



料理で多文化共生の輪を作ろう！



月に1回、星城高校の家庭科室で料理教室を開く

参加費として1人300円で、材料費を贈る

外国人を対象に約20名集める
毎回違う国の料理を作る

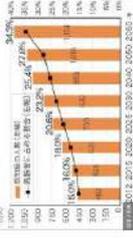


これを機に豊明市の外国人市民の方々と交流を
深めてこれからの活動につなげていきたい



百人一首で認知症を予防し 健康寿命を手に入れよう

特選1組3班 藤田潤介 鈴木豊斗 浜本乃亜 菅島大河 木田真琴 新宮菜央



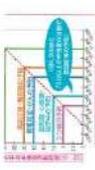
なんと日本の認知症患者数は
2020年の時点で約631万人！

約5人に1人の割合 20年後には約4人に1人



認知症予防には**運動**が効果的！

右のグラフでは、運動による認知症予防
ですよが……**めんどくさいですよね！？**
そこで考えたのが百人一首！
頭と身体を使うので認知症も運動不足は
もちろん病気の予防も役立ちます。
皆さんも参加してみませんか？



- 100枚の紙を裏に向けて並び
- 25枚ずつ取る
- 残った50枚は裏向きにしない
- 残った紙を向いて残った50枚の紙を裏向きにする
- 残った紙を向いて残った50枚の紙を裏向きにする
- 残った紙を向いて残った50枚の紙を裏向きにする
- 残った紙を向いて残った50枚の紙を裏向きにする

詳細

星城高校の作法室で行います。
3ヶ月に1回のペースで行います。
参加賞として景品をプレゼントします。



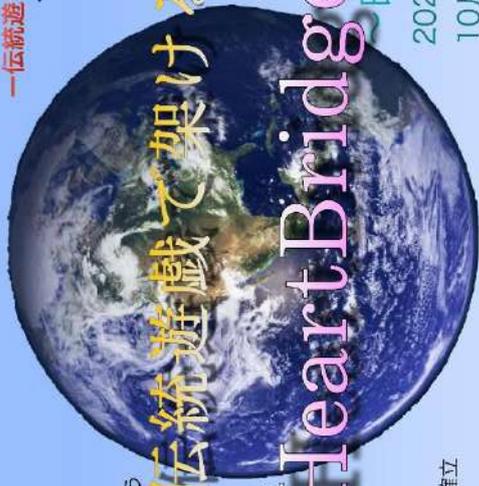
星城高校文化祭で開催！！

高校生VS高齢者・外国人市民の 「狙い」

特選1組GM班 藤田昌大 小早川聖 阿部三司 甲斐国介 七瀬朋華 木村梨乃 奥田菜音

～伝統遊びで対決～ ～競技～

- 1 きっかけを作る
- 2 仲を深めてもらう
かごめかごめ
花いちもんめ
コマ
めんこ
- 3 認知症対策
- 4 伝統遊戯を知る
- 5 楽しませる
- 6 健康体を作る
- 7 コミュニティの確立



この狙いを成功させるために
私たちが架け橋になります
～そのために～

- 生徒会へ地域の方々が学校に入れるように手配する
- 地域の方々へこの活動を伝えるために掲示板に書き込みをする
- 道具を近くの児童館などから借りられるように手配する

高齢者・外国人市民との

「共生」「協働」「協創」

特選1組GM班 平岡暉大、杉山輝慎、村中純月、相川崇洋、中野月海

花溢れる街づくりプロジェクト

そこから...

《豊明団地》
参加者 4.5人
高齢者 4.5人
外国人市民（ベトナム人）約10人
花をどう植えると綺麗に見えるかなど高齢者、外国人市民と考えながら植えることができた。



豊明市の外国人人口の推移

ブラジルが40%を占めている。
中国、フィリピン、ベトナム、その他は15%前後

★新プロジェクト

豊明市民との料理教室

目的⇒お互いの文化に触れ仲を深める

例) おにぎりコンテスト日本の文化の代表的なおにぎりを外国人に親しんでもらい、各国のおにぎり事情、にぎり飯事情を知る



料理を学ぼう



文化を学ぼう



地域と触れ合おう

れいんぼーブリッジ

橋本コース 津之郷分団 行井橋本 岩谷種利 今井元次 池井拓高 高井孝治 伊藤直

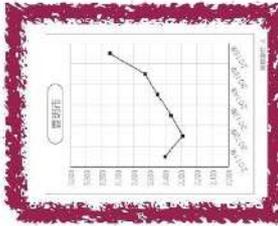
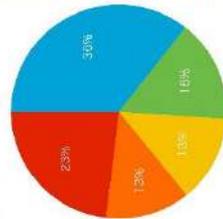
良かった点 改善点

地域の人々と大きく自分たちの力でたくさんコミュニケーションの接点を取れなかった。外国の人々を呼べなかったから、いろんな人が来るように工夫していきな。

大蔵池公園で、地域の人々と協創し新たな花壇を造り花植えをした。地域の人々を繋げる、解決策を探る力を身につける。



● フランス ● 中国 ● アメリカン ● その他 ● 100%



★ これからの活動

★ 外国の子供達と日本の子供達の出会いの場を設ける

「考える遊び」

- ・ スポーツ
- ・ こおりおに
- ・ ドロケイ
- ・ ドッジボール
- ・ かくれんぼ etc...
- ・ 同じ学校ではない子供と外国人の子供の接点を作る。
- ・ 今まで触れ合ったことのない人との繋がりを割り広げる。
- ・ クイズ当て
- ・ なぞなぞ
- ・ トランプ遊び
- ・ オセロ etc...

一緒に考える事で相手の意見を受け入れる姿勢や相手の気持ちや考え方を知らずとずる姿勢を持つ。

The "Glocal" Partnership Project

1-201 Atsuki Ryuma Takuro Kazuya Misa Kyoka



Ability

- Toyoake housing complex
- Flower planting
- Seijoh & Toyoake students, elderly people and foreign children



Toyoake Housing Complex

Research

- We need to communicate more with diverse people.



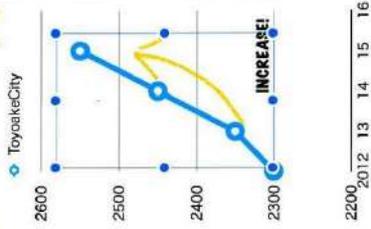
Opinion

What we need?

We have to learn about the cultures of many countries.

Solution

「ART」 connect without words



“Let’s Challenge! The Guinness World Record”

1. Deepen interaction among diverse people
2. Increase recognition of Toyoake City
3. Deepen interest in SDGs
4. Spread the word “SGL”

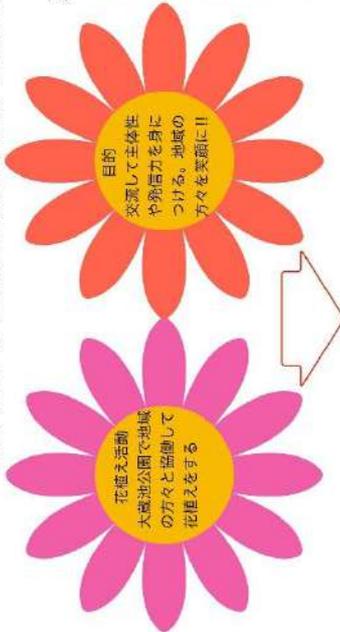
[After]

Send caps to UNISEF → Become vaccine



豊明市民と未来を照らす街づくり

特選コース 1-2 4班 杉山仁倫、渡合諒太郎、池田智也、島田大貴、和田栞紀、澤田愛都子

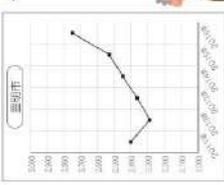


花植えの様子 ↓



※コミュニケーションを主体的に取る難しさを1番強く感じた。生徒からではなく地域の方から話しかけてもらうことが多く見られた。
 ⇒自らの意見を言葉で発信する力を身につけること。
 ○どのようにならぬとぎれいに思えるか地域の方と解決策を考えた。
 ⇒花植え後も地域の方々から喜びの言葉をもらえたこと。

外国人市民の増加グラフ



豊明市の人口 約68000人
 豊明市に住む外国人市民 約3100人
 全体の約4.5%
 2017年から2018年で250人増
 →外国人市民が増加している！



今回、高齢者市民が中心の活動だと感じた
 →高齢者市民と外国人市民との交流を増やしたい
 外国人市民に日本文化について触れてもらいたい

★新たな活動



《ならい》
 日本では死者を敬う行事で平和を願う意味である灯籠を外国人市民に知ってもらい日本文化に触れてもらう

《流れ》
 生徒からプロジェクトについて呼びかける
 ↓
 事前に灯籠を作る
 ↓
 豊明祭りで点灯式！

多文化共生を目指して

特選1年2組 3班 蟹江翔太 浅野颯太 田村雄飛 岡本恭希 吉田和生 足立美 中村崇彦

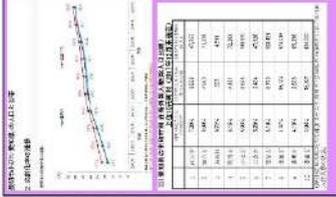
【花植え活動】



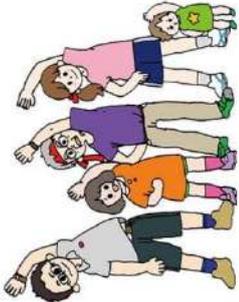
・地域の方に上手く説明できなかった
 ・班全員が配置や間隔を把握していなかった
 ・参加人数が少なかった
 ・生徒間でのコミュニケーションが多く、地域の方とのコミュニケーションが少なかった



・事前に説明資料を用意しておくことが大切
 ・準備段階で活動内容を班で共有する
 ・人数を集めるために、ちらしの配布や実際に班全員が出向いて声をかける
 ☆外国人市民がいいなかった
 ↳高齢者の方としか交流ができていなかった



高齢者も外国人市民も年々増加すると予測されている。
 ↓
 地域の運動会で交流を増やし、多文化共生を目指す。



【Suggestion】
 《目的》
 ・外国人市民と高齢者との交流の機会を増やす
 ・体を動かすことで健康に
 ・地域の縁を広げ、住みやすい街に
 《競技》
 大玉転がし、リレー、玉入れ、御引き、大縄跳び、借り物競争
 計6種目

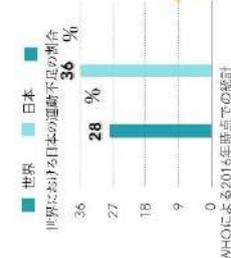
【街づくりプロジェクト】



反省点
 高齢者の人数が少な
 かったり、外国人が活
 動に来なかったりする
 ことでお互いの交流
 ができなかった

改善点
 回覧板などで高齢者や
 外国人に呼びかけたり、
 街に出てポスターを貼る
 ことが挙げられる！

花溢れる街づくりプロ
 ジェクトでは、豊明の街
 に花を溢れさせるという
 目標を達成した際に高齢
 者と協力して作業を終え
 ることができた。



**【新しい取り組み】～世代を超えて
 交流～**



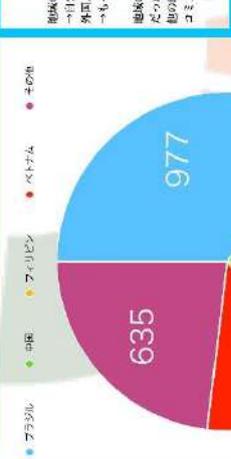
体を動かしながら、仲間
 と協力をし合い、楽しい
 企画で、交流を深める
 場として、
 パラ・コミュニケーションセンター 豊明
 場所: 豊明市福祉体育館

外国人市民がよりよく暮らせる町づくり

成田淳悟 高橋洋翔 佐野圭亮 四谷哲也 宇留生彩葉 入江静空

★活動報告★
 ①花あふれるまちづくりプロジェクト
 → 海外で地球の環境や外国人市民と一緒に花植えをした。
 ②スポーツ大会開催
 → 地域の高齢者と若者層とのための体験型スポーツ大会を開催した。
 ③豊明祭まつり
 → 豊明市のお祭りイベントを盛りだくさんで実施した。
 ④豊明市総合運動場
 → 豊明市総合運動場の整備や、新しい施設の建設、敷き出しを学んだ。

★反省点★
 ①外国人市民が私たちの間に一人も来らず、話すことができなかった。
 ②地域の高齢者や市民のひとりのコミュニケーションをとれなかったこと。
 ③開いているゴミや溢れかえっているゴミを回収できなかったこと。
 ④必要書類の整理が煩雑で参加者と会話ができなかったこと。



新たな進出
 の注目

質の高い教育をみんなに
 → 外国人児童が多い学校を訪問し、日本語を教える機会を創
 造することによって...
 外国人市民と豊明市との関係が深まる。
 よって、外国人児童と豊明市がより協力できるよるようになる。

豊明市の外国人市民の国籍別割合 (単位:人)

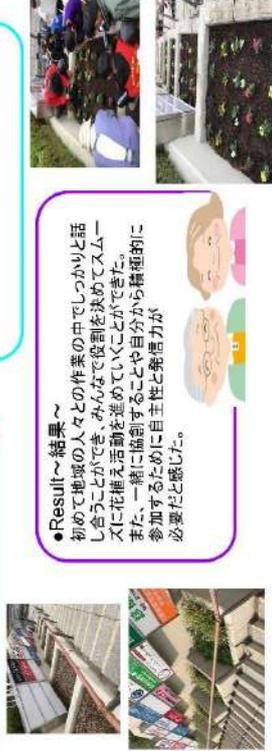
豊明市から始まる First Step

特選1年3組2班・沖吉 陸人・野々山 薫純・鯉江 森宇・井上 悠・平岩 盛一・相武 利孝

●Introduction～導入～
10月19日土曜日
外国人市民と高齢市民と積極的に交流
するために花盆れる街づくりプロジェクト
に取り組んだ。

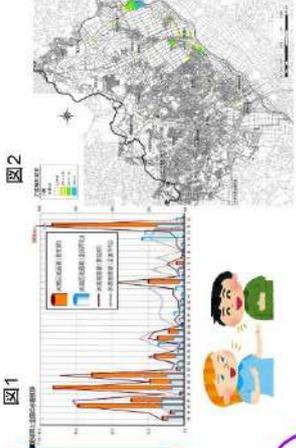
●Methods～方法～
・階段を登る時に全郡の花が昇るよう、前
にハンジー後ろに金魚草を植えた
・キレイに見えるように列ごとに色を揃え統
一感をさせた。

●Result～結果～
初めて地域の人々との作業の中でしっかりと話
し合うことができ、みんなで役割を決めてスムー
ズに花植え活動を進めていくことができた。
また、一緒に協働することや自分から積極的に
参加するために自主性と発信力が
必要だと感じた。



●Proposal～提案～ 豊明市避難フェス！～For Life～

《コンセプト》
・災害による被災地の認識と対策
〈目的〉災害から自分たちを守るた
めに情報を共有し、防災意識
を高める。
協力団体として、豊明市防災防犯課の方々に
協力して頂きたいと思っています。



《企画・プラン》
豊明市避難フェス
・〈場所〉豊明団地
・〈プラン〉豊明市文化会館にて防災に関
する講座開催
各避難場所にスタンプラリー
実施し、集めた数に応じて景
品をプレゼント

《期待できる成果》
・災害に対する認識と対策の定着
・自分たちの身を守る意識の向上
・地域の人々との親交度の向上

共に歩む新たな一歩

特選1年3組1班 石原翔生 葛谷海斗 岡村一輝 鳥原崇汰 牧野葵 津田鈴音 糸瀬七葉

〈Introduction〉
10月19日土曜日
花あふれる街づくりプロジェクト
豊明団地 高齢者とベトナム人市民
コミュニケーションや街を華やかにする
事を目的とする

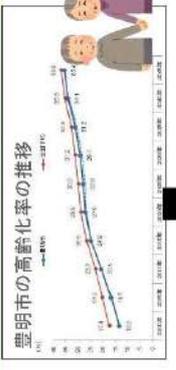
〈Methods〉事前に、花壇の草抜きを行い
綺麗に整備をしました。その後、ラップ
ガーデンさんで花を購入して花を植えまし
た。
実際の様子



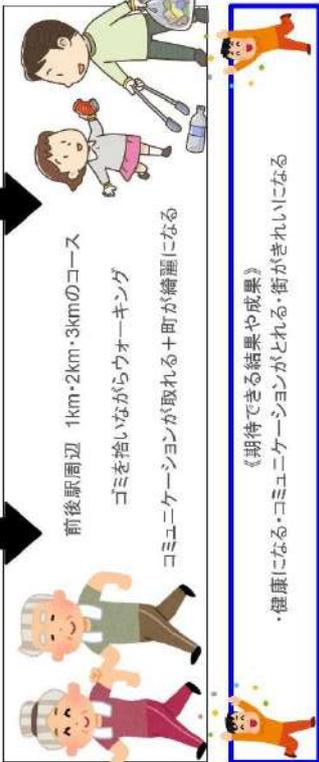
〈Results〉
・多くの地域住民と協力して花を植えた。
・雰囲気明るくなり、賑やかだった。
・コミュニケーションを取っていた。

「キヤッチ！～ゴミも気持ちも健康も～」

外国人住民数の推移
豊明市の高齢化率の推移



前後駅周辺 1km・2km・3kmのコース
ゴミを拾いながらウォーキング
コミュニケーションが取れる十町が綺麗になる



《期待できる結果や成果》
・健康になる・コミュニケーションがとれる・街がきれいになる

～光あふれる未来への道～

特進1年3組4班 伊藤りょうすけ 豊田皓太 菘心美 島田直季 小畑翔誠 川瀬愛乃

Introduction

豊明市内の高齢市民・外国人市民を中心に
より良い住み続けやすい街を作る！

Methods

- ・期間 9月7日～10月19日
- ・花の種類 バンジー
- ・特徴 遊具が少ない=子供の遊ぶ場所がない
大人の散歩や運動に適している
- ・目的 地域の方々と交流する

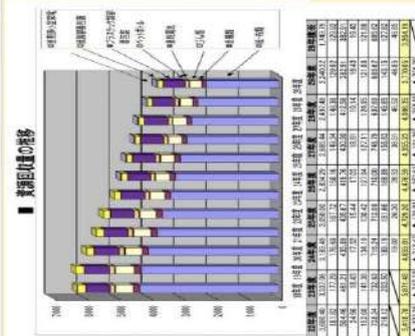


Result

- ・公園が明るくなるきっかけになった
- ・高齢の方が外にでる機会になった
- ・達成感を得ることができた
- ・地域の人がたが街を大切にしていることを深く理解した

Proposal

年	世帯数	人口	高齢者人口(%)	人口増減	人口増減率
S55	15,463	83,337	2.19	2,136	2.6
S59	17,433	95,196	7.28	2,159	2.5
H1	19,403	107,537	5.52	2,339	2.2
H10	21,392	120,132	7.41	2,599	2.1
H20	27,145	146,821	9.35	2,636	1.8
H21	27,392	146,861	11.99	2,973	2.0
H22	27,768	148,811	11.07	2,971	2.0
H23	27,806	148,937	11.35	2,938	1.9
H24	27,735	148,419	11.22	2,929	1.9
H25	28,010	148,511	11.15	2,936	1.9
H26	28,301	148,415	11.11	2,935	1.9
H27	28,778	148,909	11.24	2,935	1.9
H28	29,111	148,738	11.35	2,932	1.9
H29	29,380	148,531	11.04	2,934	1.9



[解決策]

- 目的: 環境を守る**
ターゲット: 環境に注目
1. 小学校などから回収
 2. 夢や思い出をかみに描いてもらい
 3. 夢や思い出をかみに描いてもらい
そポトルに貼り付ける
(キャップはフクチン帯付に利用)
 3. 描いてもらったものを豊明夏祭りの
前の道に置く

利点

1. リサイクル率が上がる。
2. ワクチンで健康面を管理。
3. 夢や思い出を振り返ることができる。

小さな幸福 ~ with small happiness ~

特進1年3組3班 齋藤佑至 伊藤祐貴 横井駿 野村瑛悠 横田莉奈

Introduction

10月19日(土)大蔵池公園 参加者:豊明高校生・先生・市内の方々、地域高齢者の方々
・高齢市民の方々ととの交流、運動不足解消のために花溢れるまちプロジェクトを実施した。

Methods

- Methods 110本のピオラを使用
使用した道具スコップ、
- Reset (苦勞した点・改善点)
高齢者とのコミュニケーション。
(工夫・努力した点)
地域の方々への「おもてなし」



Proposal ~ 多文化・多世代 もちつき交流会 ~

豊明の外国人市民の割合		外国人の国別割合	
人口総数	66,278人	外国人市民数	1,018人
外国人市民数	1,273人	外国人市民率	1.9%
国籍別人口数 (10~14歳)	61,796%	国籍別人口数	98,324人
国籍別人口数 (15~64歳)	24,874%	国籍別人口数	27,132人
国籍別人口数 (65歳以上)	9,604人	国籍別人口数	30,754人
国籍別人口数 (外国人)	2,902人	国籍別人口数	10,841人
国籍別人口数 (日本人)	3,600人	国籍別人口数	12,905人
国籍別人口数 (外国人)	4,955人	国籍別人口数	13,860人
国籍別人口数 (日本人)	2,472人	国籍別人口数	14,332人
国籍別人口数 (外国人)	45,956人	国籍別人口数	14,704人

concept

多文化交流と多世代交流を
同時に行う
各国の特産物を使用した餅作り

plan

【日時】冬休みの期間
【場所】唐竹公園
【対象】豊明市の外国人高齢
【協力】区の敬老会

expected results

高齢者、外国人とコミュニケーションが取れる。
他国の文化を市民全体で理解を深めることができる

世代を超えた交流 ～ジェネレーション・ネットワーク～

特選1年3組6班 佐藤楓 三田村結和 河合忠 寺田大靖 大野航太郎

＜Introduction＞

10月19日(土)
花あふれる街づくりプロジェクト
場所:大蔵池公園
桜ヶ丘区の高齢者と協力

＜Method＞

・花の種類の
パンジー×100
・土の量
14リットル×39袋 ワンセット

＜Resurcit＞

高齢者の方々とコミュニケーションをとりながら活動するという企画が出来た。反省点、説明ミスで作業がスムーズに行えなかった。



～多文化・多世代交流 学園祭を作ろう！～

特選1年3組5班 太田海斗 亀子博輝 土持勲 吉村礼央 伊藤亜有菜 三村華穂

花溢れる街づくりプロジェクト

【目的】
地域がグローバル化、高齢化する中、互いに交流し一体化させるために花を植える
場所:三崎水辺公園



【方法】

- ・公園の道路沿いの斜面の下の方を掘り、土の流出を防ぐため、ブロック(40個)を斜面側に埋める。
- ・斜面の除草をする。
- ・土(616L)を入れる。
- ・赤とピンクのパンジーの花(70個)を30cm間隔で交互に植える。

【実施して感じたこと】

- ・主体性を持つべきだった
- ・自分達で情報を集めるべきだった。
- ・地域の方との交流が少なかった
- ・チラシなどを作り配るべきだった。

【新たな活動の提案】

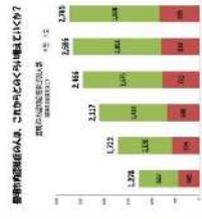
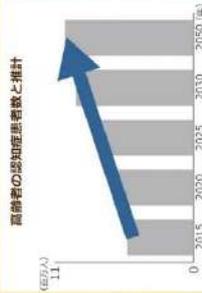
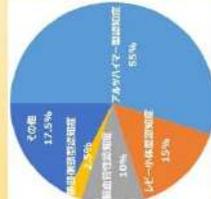
国・世代の壁を超えて交流できる！
多文化共生学園祭



- ～プラン～
- ・豊城高校で開催
 - ・学園祭のようなイベント
 - ・豊明市の外国人市民や高齢市民と一緒に
 - ・どんなイベントか→外国人の方々や高齢者の方と関わり、協力し合う。
 - ・外国人の方々と交流を多くとる。
 - ・高齢の方でも楽しめるようなイベントにする
 - ・外国人市民や高齢市民に向けて、一般公開で食べ物を作ったりバザー、イベントなどを行う。

【コンセプト】

- ・様々な国の外国人の方々とその方々の自国の文化を教えてくださる機会をもちたい。
- ・高齢者の方々には日本の昔ながらの遊びを教えて貰い、それを外国人の方々と交流する



【世界】



【日本】

年齢	1119	1026	1022
65～69歳	6,506	6,860	6,308
70～74歳	12,708	14,698	18,102
75～79歳	18,533	22,460	28,287
80～84歳	25,936	31,268	41,851
85歳以上	38,067	50,340	81,693

【愛知県】

認知症予防のために、私たちが募集を集めているサイトから共生型福祉施設(いきす)などに出向いて、活動を行う。

(5) 地域協働プログラム

外国人市民との共生や高齢市民の健康福祉の重要性を理解したり、意識を高めたりするために、コンソーシアムを構成する関係機関が主催するさまざまな地域協働活動に生徒が参加できるように地域協働プログラムの開発に取り組んだ。多文化共生アプローチでは外国人児童の学習支援を目的とした子ども日本語教室、健康福祉アプローチでは高齢市民の健康促進を目的とした介護予防体操教室へそれぞれ生徒たちが定期的に参加するプログラムになるように、前者は豊明市国際交流協会、後者は(株)スギ薬局の協力を得た。

国際交流協会主催 子ども日本語教室

豊明市立双峰小学校内にある二村会館では毎週木曜日 15:20 から 16:20 まで子ども日本語教室が開かれている。これは豊明市国際交流協会が主催する支援活動で、市内の高齢市民がボランティアで外国人児童に日本語を教えたり、宿題を教えたりして学習支援をしている。双峰小学校の近くには豊明団地があり、そこには多くの外国人児童が住んでいる。豊明団地付近には唐竹小学校もあり、そこに通う外国人児童の中にもこの子ども日本語教室に通っている児童もいる。子ども日本語教室に通う外国人児童の多くはブラジル人で、中国やペルー、モンゴル出身の児童など併せて 30 人程度の外国人児童が通っている。その指導にあたるボランティアは 10 人以下で、きめ細かい指導をするには限界があるという話があった。そこで本校生徒がボランティアと協働で外国人児童の学習を支援する地域協働プログラムを開発することになった。

9月5日、26日、1月23日、30日、2月6日、13日に実施された子ども日本語教室にそれぞれ 5~9 名の希望生徒が参加し、合計 44 名の生徒が学習支援スタッフに加わった。最初はお互いに少しの緊張と恥ずかしさがにじみ出るものの、あっという間に打ち解ける状況に驚かされた。特にブラジルの女子児童はすぐに懐いてくれる傾向があり、たった一時間の学習支援であっても、本校生徒が帰るときには別れを惜しむ状況も見られた。ボランティアスタッフからは、「高校生が手伝ってくれると子どもたちが椅子に座って勉強する時間が長くなった。」との言葉をいただいた。参加した生徒たちは皆次の機会も参加して学習支援に携わりたいと口にした。これは外国人児童への学習支援を通じて、外国人市民との共生の推進に自分が役に立っていると実感したからだと思われる。

多文化共生アプローチにおいて、国際交流協会が主催する子ども日本語教室での学習支援は外国人市民との共生について学ぶ重要な地域協働プログラムだと考えられる。

(株)スギ薬局主催 豊明市大金星体操教室

今年度から豊明市内にあるスギ薬局三崎店と杳掛店で、豊明市健康長寿課とスギ薬局のコラボレーション活動として毎週土・日曜日の午前の部と午後の部で介護予防体操教室が開かれている。この介護予防体操は2018年に豊明市が独自に開発した大金星体操と呼ばれるもので、口の機能を鍛えたり、手や足腰の筋力アップをしたりして、転倒予防や認知症予防につながる体操である。各店舗の調剤受付スペースを使い、豊明市が提供した大金星体操のDVD映像をモニターで見ながら体操を行う。各店舗の午前・午後の部のそれぞれで5から10名程度の高齢市民が定期的に参加している。そこに本校の生徒が参加して、多世代交流によって高齢市民の健康福祉を推進する地域協働プログラムを開発することになった。

8月24日、9月7日、14日、21日、11月9日、16日、30日、12月7日、14日、21日、1月11日、18日、2月1日、8日、15日に実施された介護予防体操教室へ2～6名の生徒が土曜日を中心に各店舗の午前の部又は午後の部に合計114名が参加した。本校の生徒は参加している高齢の方々になかなか上手に話しかけられない場面もあったが、高齢の方々から「若い子たちと一緒に運動できてうれしいし、元気をもらえる。次回もまた楽しみにしている。」と声を掛けられ、会話が弾むようになることもしばしばあった。初めて話す高齢市民と方々と会話し、一緒に介護予防体操をすることで高齢市民の方々に喜んでもらえることを生徒たちは実感していた。

高齢市民の方々は毎週のように参加していて体操の内容をよくわかっているが、本校の生徒はまだ介護予防体操になじみがなくてうまくできない場面もあった。そのような場面では高齢市民の方々に生徒がやり方を教えてもらうことが多々あった。そのような交流をしながら高齢市民の方々が楽しそうに高校生と介護予防体操に取り組む姿は多世代交流による地域協働活動そのものであり、お互いの心が豊かになる温かい空間が自然にできあがっていると活動の様子を見ながら感じた。

スギ薬局保健指導推進課の担当者の方からは、「高齢者は若い人と一緒に体操したり、または他の人に見られたりすることによって適度な緊張感と頑張ろうとする気力が生じるので、高校生が参加することには大きな意味がある。これからも継続的に取り組んでもらえるとありがたい。」と報告をいただいた。このことから、高齢市民との多世代交流が高齢市民の健康福祉を促進することになると実感できる活動になっていることがわかった。健康福祉アプローチにおいて、スギ薬局介護予防体操(大金星体操)教室への参加は高齢市民の健康福祉について学ぶ重要な地域協働プログラムだと考えられる。

Rainbow Bridge Project !

ご高齢の方々が輝く街づくり

豊明市・(株)スギ薬局・星城高校による地域協働

シルバー世代の方々、ご高齢の方々が
地元地域で輝くような街づくりを
高校生が皆さんと一緒に
推進していきます！

スギ薬局 〈三崎店・沓掛店〉での
大金星体操に高校生と一緒に
参加させていただきます。

体操をしながら、普段感じていることや困っていることなどを
お気軽に高校生に話していただければと思います。

問合せ：星城高等学校 文部科学省指定「地域協働推進校」
SGL 事務局【春木】 TEL：0562-97-3111 (代表)

*本プロジェクトは文部科学省指定「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の取組です。

4. 研究開発の内容【SGL 語学】

コミュニケーション力アプローチとして、「SGL 語学」を学校設定教科として教育課程表の中に設定した。1年次の教育課程では学校設定科目「SGL 英語 I（1単位）」の研究開発を行った。

仰星コースについては SGH アソシエイト校として研究開発してきた「SGH 英語 I」を「SGL 英語 I」に科目名を変更し、英語の Speaking 技能と Listening 技能の向上に力点を置いた授業内容の研究開発に取り組んだ。

特進コースには置き換えられる科目が存在しないため、次年度に「SGL 英語 I」を設定できるように、現状で存在する科目の中で研究開発を行った。具体的にはコミュニケーション英語 I（4単位）の中で、1単位分を「SGL 英語 I」の研究開発につなげる授業展開を計画した。

両コースにおいて共通するのは、ネイティブ教員による少人数授業の実施と Speaking 技能と Listening 技能の向上を目的とした授業内容を実施していることである。

（1）SGL 英語 I 【仰星コース】 シラバス

（ア）教科名・科目名：

教科名：SGL 語学（学校設定教科） 科目名：SGL 英語 I

（イ）履修単位数・履修学年及び対象コース：

履修単位数：1単位 履修学年：1年次 対象コース：仰星コース

（ウ）学習の到達目標

英語のコミュニケーション能力の向上を図る。英語で他者と会話する力、自分の考えを英語で発表する力、異なる意見を持つ相手と英語で理解し合う力を育成する。学習内容は CEFR の A2 から B1 にレベル設定し、B1 以上の運用能力育成を目標とする。

（エ）教科書

Revised POLESTAR English Communication I（数研出版）

副教材

a. POLESTAR English Communication I

アクティブラーニング用ワークシート

b. POLESTAR English Communication I

Show Your Performance 用ワークシート

（オ）評価の観点及び評価の方法

	関心・意欲 ・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
観点	英語を話すことによって積極的に相手とコミュニケーションを図ろうとしているか。	場面や目的に応じた必要な情報や自分の考えを英語で相手に伝えようとしているか。	相手が英語で話すことを理解しているか。また自分が伝えたことを英語で話しているか。	英語を話すために必要な語彙や表現などの言語運用知識を身に付けているか。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の授業態度 ・ 定期テスト ・ Speakingテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スピーチ及び発表 ・ 定期テスト ・ Speakingテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スピーチ及び発表 ・ 定期テスト ・ Speakingテスト ・ Listeningテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スピーチ及び発表 ・ 定期テスト ・ Speakingテスト ・ Listeningテスト

(カ) Can-do リスト

CEFR	Listening	Speaking
Grade B1	<p>(1) 短い物語も含めて、学校、日常生活で、出会う、ごく身近な事柄について、標準語で明瞭に話された英語なら普通に理解できる。</p> <p>(2) 英語のネイティブ・スピーカーが標準語で話し、発音もはっきりとしていれば、比較的長い講義・議論の要点を理解できる。</p>	<p>(1) 自分の関心のあるさまざまな話について、ほどほどの流暢さで説明や意見を述べプレゼンテーションができる。</p> <p>(2) 自分のよく知っている話題について、簡単なディベートができ英語のネイティブ・スピーカーの質問にも的確に答えることができる。</p>
Grade A2	<p>(1) ゆっくりはっきりと話してもらえばスポーツや料理などの一連の行動の指示を聞いて理解し、指示通りに行動することができる。</p> <p>(2) 英語のネイティブ・スピーカーがスピードやポーズなどにある程度配慮して話をすれば、おおよその内容を理解することができる。</p>	<p>(1) 自己紹介をしたり、時間・日にち・場所について質問したり、事前に準備した身近なトピックについて短い話ができる。</p> <p>(2) 英語のネイティブ・スピーカーと、自分のことやなじみのある話題について、英語で短いやり取りをすることができる。</p>

(キ) 授業形態及び授業担当者

コミュニケーション英語 I (3 単位)とセットで授業を展開し、2 クラスを 3 グレードに分け、グレード別授業を行う。(グレード別授業の最大生徒数は約 20 名) 授業担当者は英語ネイティブの教員予定。

(ク) 定期テストと 5 段階評価の算出方法

定期テストは 1 学期期末テスト、2 学期期末テスト、3 学期学年末テストの年 3 回実施する。テストは授業担当者が作成する。生徒の Speaking 力の評価に関しては、英語のスピーチと、ネイティブの教員との英語の面接試験を通して行う。5 段階評定の算出方法については、定期テストと speaking テストの配点を合計 100 点とする。

(ケ) 年間学習計画

学習単元	学習方法	評価のポイント
1. Washoku-Japanese Food Culture	・文型を理解し和食と日本の食文化について英語で話す	・和食の材料や特徴について英語で説明できる
2. Different Bottles, Different Names	・現在完了形を理解し、ペットボトルの利点と問題点について英語で話す	・リサイクルについて、自分の考えを英語で説明できる
3. The Adventures of Ishikawa Naoki	・関係代名詞を理解し、石川直樹が冒険家になるまでについて英語で話す	・外国に行く利点・注意点について英語で説明できる
4. Bright Stars in a Dark Sky-Tekapo	・進行形を理解し、テカポの夜空が世界遺産に推薦される経緯を話す	・テカポの特徴について英語で説明できる
5. The Story of Amazing Grace	・受動態を理解し、アメイジンググレイス誕生の物語について英語で話す	・ジョン・ニュートンと本田美奈子の人生を英語で説明できる
6. The Dark Side of Diamonds	・分詞を理解し、シエラレオネのダイヤモンドに関わる紛争について話す	・「血のダイヤモンド」に対する国連の対策を英語で説明できる
7. Ice Cream That Does Not Melt	・分詞構文を理解し、溶けないアイスクリームを作った大学生について話す	・大学生たちが溶けないアイスクリーム作った経緯を説明できる
8. The World of Haiku	・仮定法を理解し、英語の俳	・俳句が海外で関心を集

9. Stephen's Story: That Will Never End	句について話す ・知覚動詞を理解し、10代でがんになった主人公について話す	めている理由を英語で説明できる ・スティーヴンのブログがなぜ注目されたのか英語で説明できる。
10. Messages from a Trunk	・so～that構文を理解し、長崎や広島で撮影された原爆の写真について話す	・ジョー・オダネル氏が原爆の写真を公開することにした理由を英語説明できる

(2) SGL 英語 I 【特進コース】 シラバス

(ア) 教科名・科目名

教科名：外国語科 科目名：コミュニケーション英語 I (4 単位)

(イ) 授業単位数・履修学年及び対象コース

授業単位数：1 単位 履修学年：1 年次 対象コース：特進コース

(ウ) 学習の到達目標

必要な情報を英語で理解するための Listening 技能と、場面や目的に応じて自分の考えを英語で相手に伝えるための Speaking 技能を中心に育成する。また、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。学習内容は CEFR の A1 から A2 にレベル設定し、A2 以上の運用能力育成を目標とする。

(エ) 教科書： MAINSTREAM English Expression I 2nd Edition (増進堂)

(オ) 評価の観点及び評価の方法

	関心・意欲 ・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
観点	英語を話すことによつて積極的に相手とコミュニケーションを図ろうとしているか。	場面や目的に応じて、必要な情報や自分の考えを英語で相手に伝えようとしているか。	相手が英語で話すことを理解しているか。また、自分が伝えたいことを英語で話しているか。	英語を話すために必要な語彙や表現などの言語運用知識を身に着けているか。
方法	① 授業態度及び提出物の内容をもとに学期ごとに評価し、点数化する。 ② Speaking と Listening に関する実技テストを学期に 1 回以上実施して評価し、点数化する。			

(カ) Can-do リスト

CEFR	Listening	Speaking
Grade A2	<p>(1) ゆっくりと話してもらえば、スポーツや料理などの一連の行動の指示を聞いて理解し、指示通りに行動することができる。</p> <p>(2) 英語のネイティブ・スピーカーがスピードやポーズなどにある程度配慮して話をすれば、おおよその内容を理解することができる。</p>	<p>(1) 写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら学校や地域などの身近なトピックについて、短い話をするすることができる。</p> <p>(2) 自分が話したことや発表したことに対するネイティブ・スピーカーからの質問に英語でなんとか答えることができる。</p>
Grade A1	<p>(1) ゆっくりはっきりと話してもらえば、電話番号や商品の値段、場所の道順、駅・空港のアナウンスなどをほぼ理解できる。</p> <p>(2) 英語のネイティブ・スピーカーがスピードやポーズなどにかなり配慮して話をすれば、おおよその内容を理解することができる。</p>	<p>(1) 自己紹介をしたり、時間・日にち・場所について質問したり、事前に準備した身近なトピックについて短い話をするすることができる。</p> <p>(2) 英語のネイティブ・スピーカーと、自分のことやなじみのある話題について、英語で短いやり取りをすることができる。</p>

(キ) 授業形態及び授業担当者

- ・授業は1クラス2展開で実施する。(1教室最大20名)
- ・授業担当者はネイティブ教員を配置する。

(ク) 年間学習計画

学習単元	学習方法	評価のポイント
1. Nice to meet you	・文の要素を理解し、英語で自己紹介をする	・5文型の理解
2. What kind of Music Do You Like?	・現在形の性質を理解し、自分の好みについて英語で話す	・3人称単数現在の‘s’の理解
3. My Treasure	・過去形の性質を理解し、自分の大切なものについて英語で話す	・動詞の過去形の理解

4. This coming weekend	・未来を表す表現を理解し、未来の予定について英語で話す	・will・be going toなどの理解
5. Subjects I'm taking	・進行形の働きを理解し、自分が勉強している科目や内容について英語で話す	・be 動詞 + doing の理解
6. Are You in a Club?	・現在完了形の働きを理解し、クラブ活動などについて英語で話す	・have + 過去分詞の理解
7. The School Festival Is Coming Soon	・現在完了進行形と過去進行形の働きを理解し、文化祭や祭りについて英語で話す	・have been doing と had + 過去分詞の理解
8. Getting to Asahi Senior High School	・助動詞の働きを理解し、英語で道を案内する	・can, should, may, would, must などの理解
9. The Store I often Go to	・命令文について理解し、英語で道を案内する	・動詞の原形から始める英文の理解
10. I Feel Sick	・不定詞の働きを理解し、健康状態について英語で話す	・名詞、形容詞、副詞の用法の理解
11. Volunteer Activity	・動名詞の働きを理解し、ボランティア活動について英語で話す	・名詞 doing の理解
12. Japanese Food	・分詞の働きを理解し、日本食や他国の食べ物について英語で話す	・形容詞 doing と過去分詞の理解
13. Countries Around the World	・関係代名詞の働きを学習し、留学や世界の国々について英語で話す	・主格、所有格、目的格の理解
14. Reduce, Reuse, Recycle	・比較表現の用法を理解し、環境問題について英語で話す	・比較級と最上級の理解
15. We Are What We Eat	・関係副詞の働きを理解し、食べ物について自分の考えや意見を英語で発表する	・where, when, why, how の理解
16. An Impressive Book	・仮定法の働きを理解し、おすすめする物について英語で発表する	・仮定法での時制についての理解

5. マレーシア海外研修の研究開発

海外研修の企画と実施

グローバルな視点での学びをより深く追及するためのプログラムとして、12月にマレーシア海外研修を企画した。多文化共生アプローチでは、多民族・多宗教・多言語が共生・共存する多文化共生社会を体験し、取組や課題を発見から多文化共生推進の重要性を理解するフィールドワークを企画した。健康福祉アプローチでは、マレーシア移住日本人高齢者と交流することで健康福祉や高齢社会に関する取組や課題を発見し、日本に地域社会に必要なことを考えるフィールドワークを企画した。また、それらのフィールドワークを通してマレーシアと豊明市の比較を重要視した。コミュニケーション力アプローチでは、英語力が求められる現地大学生とのB&Sプログラムを行程に組み込んだ。

募集人数30名に対して60名が参加申し込みしたことから、生徒の海外研修への関心が高いことが分かった。意欲や英語力を測る選考試験を実施し、参加生徒30名を選抜した。

今回の海外研修が今までのものと異なる点は、海外交流アドバイザーの古藪真紀子氏に研修内容の企画開発や事前研修と事後研修の実施に深くかかわっていただいたことである。学校の教員では気づかない点や現地で学ぶべき題材、事前に学ぶべき内容など多くの指導や助言をいただき、質の高い海外研修の企画となった。

SGL マレーシア海外研修の行程

日付	15日(日)	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)	21日(土)
午前	中部国際空港発	ヒンズー教見学研修 ピューター体験研修	現地大学生B&S班別研修プログラム	仏教寺院見学研修 日本人会との交流会	クアラルンプール ↓ マラッカへ移動	ジョホールバル 見学研修 シンガポール入国	中部国際空港着
午後	シンガポール・チャンギ国際空港乗継	イスラム教見学研修 バティック体験研修	現地大学生B&S班別研修プログラム	環境保護トレッキング研修 キリスト教見学研修	世界遺産マラッカ班別研修プログラム	セントーサ島班別研修プログラム	
夜間	マレーシアクアラルンプール国際空港着	ホテルにて活動報告会	ホテルにて活動報告会	ホテルにて活動報告会	ホテルにて英語1分間スピーチ	シンガポール・チャンギ国際空港発	

この海外研修には班別研修が多く組み込まれている。これは単なるスタディーツアーにならないように、生徒が主体的に活動することを意識的に求めた結果である。特に行程 3 日目の B&S プログラムでは各班の探究テーマに沿った市内研修の内容を各班で考えさせ、その内容をもとに旅行業者に手配してもらうことで、自分たち自身で作り上げる行程となった。当日は現地大学生が各班に 2 名ずつ加わってもらい、生徒は大学生と英語でコミュニケーションをとりながら自分たちで計画した学校見学や病院視察を行うなど、生徒たちは意欲的に研修をした。班別研修プログラムとその行程を自分たちで考えさせることは生徒の主体性を引き出す効果的な手法であった。

各班の探究テーマと SDGs

班番号	探究テーマ	SDGs
1 班	「建造物」	15. 陸の豊かさを守ろう
2 班	「衣食住」	11. 住み続けられるまちづくりを
3 班	「民族・文化の平等」	10. 人や国の不平等をなくそう
4 班	「教育」	4. 質の高い教育をみんなに
5 班	「健康福祉」	3. すべての人に健康と福祉を

興味深い取組としては、事前研修において各個人でマレーシアをイメージしたコラージュを作成したことである。写真や雑誌の切り抜きを画用紙に貼り付けて、生徒のイメージをそれぞれ一つの作品にした。事後研修では現地から持ち帰った様々な資料を用いて、個人ではなく各班で一つのコラージュを作成し、マレーシア研修前と研修後の違いを視覚的に比較できるものとなった。文章以外の方法で自分たちのイメージを表現する研修は初めての経験であり、とても興味深い手法であった。

事前研修、海外研修、事後研修のどれをとっても参加した生徒たちはとても意欲的であった。これらの研修を通じて生徒たちの学びに対する姿勢は大きく変化したように感じる。多文化共生社会で自分たちにできることや自分たちに足りないことをこれからの自分自身の課題としてとらえ、その課題に対して主体的に取り組む姿が見られるようになった。グローバルな視点での学びの充実という観点だけでなく、生徒の学びに対する姿勢そのものにも変化を与える有意義な海外研修プログラムとなった。

6. 活動成果の発表

3月成果発表会

今年度、本校では、地元豊明市、豊明高校、株式会社ARMS、株式会社スギ薬局などとコンソーシアムを形成し、その中で、豊明市の抱える「外国人市民との多文化共生を推進する地域活動」と「高齢市民との安心・安全な健康生活づくりを協働する地域活動」を題材として、高校生たちが「共生・協働・協創」をキーワードに、豊明市に暮らすあらゆる人々が、笑顔で輝く新たなコミュニティーを創成するプログラムに取り組んだ。そこで、その成果を発表する場として、文部科学省初等中等教育局参事官付(高等学校担当)高等学校改革推進室室長の安彦広斉様をお招きして、次の要領で今年度の取組の成果発表会を開催する予定であった。

しかし、新型コロナウイルス感染症についての事案が生じて、本校は3月18日まで臨時休校とすることとなり、この発表会および第3回コンソーシアム会議は延期となった。今後は、新年度4月に規模を縮小した内容で実施できるように企画変更を進める。なお、予定していた成果発表会は、次の通りである。

成果発表会内容

- | | | |
|---|----|---|
| 1 | 日時 | 令和2年3月14日(土)
9:00~11:00 |
| 2 | 会場 | 名古屋石田学園星城高等学校【石田記念館(講堂)】 |
| 3 | 対象 | 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定校・アソシエイト校関係者、教育関係者、コンソーシアム会議関係者、地域の方々 |
| 4 | 日程 | 8:30 受付
9:00 開会
9:15 生徒成果発表
第2学年 SGH 発表*英語での発表
第1学年 SGL 発表*日本語での発表
SGL マレーシア海外研修発表*日本語での発表
2019年度全国高校生フォーラム発表*英語での発表
10:20 ご高評
文部科学省初等中等教育局 高等学校改革推進室長
安彦 広斉 氏
10:50 閉会 |

2020年3月14日(土)9:00～
星城高校石田記念館
活動成果発表会



文部科学省指定 グローカル型地域協働推進校
地域との協働による高等学校教育改革推進事業



時間:9:00～11:00

内容:

- ・2年生代表SGH発表
- ・1年生代表SGL発表
- ・マレーシア海外研修発表
- ・全国フォーラム発表
- ・講評

【探究テーマ】

『外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト』
～新たなコミュニティーを協創する
スーパー・グローバル・リーダー(SGL)の育成～

【地域協働コンソーシアム】

豊明市・(株)スギ薬局・(株)ARMS・星城大学・県立豊明高校・
国際交流協会・社会福祉協議会・NPO法人プラスエデュケート

名古屋石田学園 星城中・高等学校

申込締切日の2月28日(金)現在では、参加予定者総数は360名であり、主な参加予定者は、愛知県議会議員2名、コンソーシアム関係者10名、豊明市関係で市議会議員3名、商工会3名、青年会議所2名、教育委員会教育委員2名、花植え活動の際にご参加いただいた敬老会から7名、2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型指定校1名、公立中学校校長1名と本校職員、仰星コース1年生と2年生そして特進コース1年生生徒であった。

7. 活動評価と目標設定の達成度

(1) ルーブリック評価

ア 全体集計より

「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」(新たなコミュニティを協創するスーパーグローバル・リーダー (SGL)の育成プロジェクト)のめざすスーパーグローバル・リーダー像は、地域協働推進校としてのSGL活動、さらには豊明市から認定された豊明市地域協働サポーターとしての活動を通して、次の4つの力を身に付けたリーダーである。

- ①自ら行動する力としての主体性
- ②人々とつながる力としての協働性
- ③解決策を探る力としての探究力
- ④相手に伝える力としての発信力

SGL活動を通じて生徒がどのように変容していくかをルーブリック評価によって把握し、生徒の変容状況を踏まえて活動内容や指導方法の改善につなげる。ルーブリック評価では、育てたいリーダー像に照らして上記の①～④を評価項目としている。自分の活動内容をレベル1からレベル4までの4段階の評価文の中のどのレベルに相当するかによって自己評価する。学期ごとに活動内容が異なるので、各レベルの評価文も学期ごとに異なるように作成してある。学期ごとのSGL活動の概要については、1学期は外国人市民との多文化共生と高齢市民の健康福祉に関する基本的な「学習活動」であり、2学期は「花溢れる街づくりプロジェクト」による花壇づくりと花植えの「実践活動」をして、3学期は次年度に向けて「外国人市民との多文化共生」と「高齢市民の健康福祉」を推進するため自分たちとして何をしたいかを提言としてまとめる「探究的活動」を行った。実施した1学期から3学期までのルーブリック評価のクラス別及び全体集計は表x、y、zにまとめた。

1学期から3学期までのルーブリック評価の全体集計から、1学期の「学習活動」ではレベル2の自己評価をする生徒が全体の約半数の49%と最も多く、2学期の「実践活動」では全体の半数を超える55%の生徒がレベル3の自己評価をしている。1学期から2学期でレベル2からレベル3に自己評価が上がるという生徒の変容が見られた。生徒の自己評価を上げた要因を評価項目から見ると、特に主体性と協働性の2つであった。

表 x 1 学期ルーブリック評価の集計表

星城高等学校 SGL活動 ルーブリック評価集計表(1学期)

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	
主体性 自ら行動する力	話をよく聞きメモをとりながら内容を理解する。	話をもとに、自分の意や考えを文章にする。	自分の意見や考えを自分の言葉で主張する。	相手の意見との関連を踏まえて、もう一度自分の考えをまとめる。	
協働性 人々と繋がる力	相手の意見や考えを素直に聞く。	相手の意見を受けとめ、内容を理解しようとする。	グループ内で相手の意見を尊重し意見を交わす。	多様な意見をもとに、グループとしての意見や考えをまとめる。	
探究力 解決策を探る力	指示された課題に対して調べ学習などをする。	調べた内容をもとに自分自身の考えをまとめる。	自分自身で課題を見つけ調べた内容をまとめる。	自ら発見した課題に対する解決策を考えまとめる。	
発信力 相手に伝える力	課題に対して自分が思ったことや感じたことを相手に伝える。	グループ内で課題に対する自分の考えや意見を伝える。	グループで考えた意見や提案などを代表して全体の場で発表する。	自分の考えや意見、又は質問などを全体の場で発表する。	
仰星1年1組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	8 28.6%	9 32.1%	7 25.0%	4 14.3%	28
協働性	4 14.3%	11 39.3%	12 42.9%	1 3.6%	28
探究力	8 28.6%	14 50.0%	5 17.9%	1 3.6%	28
発信力	4 14.3%	17 60.7%	7 25.0%	0 0.0%	28
小計	24 21.4%	51 45.5%	31 27.7%	6 5.4%	112
仰星1年2組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	4 13.8%	20 69.0%	4 13.8%	1 3.4%	29
協働性	3 10.3%	15 51.7%	10 34.5%	1 3.4%	29
探究力	9 31.0%	15 51.7%	5 17.2%	0 0.0%	29
発信力	7 24.1%	19 65.5%	3 10.3%	0 0.0%	29
小計	23 19.8%	69 59.5%	22 19.0%	2 1.7%	116
特進1年1組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	6 16.2%	18 48.6%	10 27.0%	3 8.1%	37
協働性	3 8.1%	12 32.4%	17 45.9%	5 13.5%	37
探究力	8 21.6%	18 48.6%	9 24.3%	2 5.4%	37
発信力	7 18.9%	22 59.5%	6 16.2%	2 5.4%	37
小計	24 16.2%	70 47.3%	42 28.4%	12 8.1%	148
特進1年2組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	11 29.7%	16 43.2%	9 24.3%	1 2.7%	37
協働性	1 2.7%	16 43.2%	17 45.9%	3 8.1%	37
探究力	8 21.6%	20 54.1%	8 21.6%	1 2.7%	37
発信力	10 27.0%	20 54.1%	6 16.2%	1 2.7%	37
小計	30 20.3%	72 48.6%	40 27.0%	6 4.1%	148
特進1年3組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	9 27.3%	14 42.4%	9 27.3%	1 3.0%	33
協働性	1 3.0%	12 36.4%	19 57.6%	1 3.0%	33
探究力	10 30.3%	12 36.4%	10 30.3%	1 3.0%	33
発信力	8 24.2%	22 66.7%	3 9.1%	0 0.0%	33
小計	28 21.2%	60 45.5%	41 31.1%	3 2.3%	132
全クラス合計	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	38 23.2%	77 47.0%	39 23.8%	10 6.1%	164
協働性	12 7.3%	66 40.2%	75 45.7%	11 6.7%	164
探究力	43 26.2%	79 48.2%	37 22.6%	5 3.0%	164
発信力	36 22.0%	100 61.0%	25 15.2%	3 1.8%	164
小計	129 19.7%	322 49.1%	176 26.8%	29 4.4%	656

表 y 2 学期ルーブリック評価の集計表

星城高等学校 SGL活動 ルーブリック評価集計表(2学期)

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性 自ら行動する力	班で計画したことや先生から指示されたことに取り組んだ。	花壇作成状況を見て、追加で必要な作業を自分たちで行った。	花植えなどの際、地域の方々と交流しながら活動した。	花植え後も地域の方々とコミュニケーションをとって花壇を管理している。
協働性 人々と繋がる力	班員や先生の意見を聞いて、花壇作成の計画をつかった。	花屋やJAの方などに相談しながら花壇をつくり、花苗の購入をした。	地域の人々と一緒に花壇をつくったり、花植えをすることができた。	花植え後も地域の方々とは何かの交流がある。
探究力 解決策を探る力	予算内でよりよい花壇を作るため、その方法を班で考えた。	花壇をつくるための作業工程を考え、必要なものを購入して取り組んだ。	地域の方々に説明やお願いを事前に行い、参加者を募ることができた。	花植え活動が地域課題の解決にどのようにつながるかを考えている。
発信力 相手に伝える力	花壇作成の計画について、自分の意見を班員に伝えることができた。	地域の方々にあいさつや花植えの説明などをすることができた。	地域の人々と会話をしながら、花壇作成や花植えをすることができた。	地域の方々とお互いの日常生活について会話をすることができた。

仰星1年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	2	7.4%	3	11.1%	16	59.3%	6	22.2%	27
協働性	4	14.8%	3	11.1%	18	66.7%	2	7.4%	27
探究力	3	11.1%	11	40.7%	9	33.3%	4	14.8%	27
発信力	4	14.8%	5	18.5%	12	44.4%	6	22.2%	27
小計	13	12.0%	22	20.4%	55	50.9%	18	16.7%	108

仰星1年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	2	6.9%	24	82.8%	3	10.3%	29
協働性	1	3.4%	5	17.2%	19	65.5%	4	13.8%	29
探究力	1	3.4%	11	37.9%	15	51.7%	2	6.9%	29
発信力	4	13.8%	3	10.3%	12	41.4%	10	34.5%	29
小計	6	5.2%	21	18.1%	70	60.3%	19	16.4%	116

特進1年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	2	6.1%	6	18.2%	23	69.7%	2	6.1%	33
協働性	4	12.1%	2	6.1%	25	75.8%	2	6.1%	33
探究力	3	9.1%	18	54.5%	8	24.2%	4	12.1%	33
発信力	2	6.1%	12	36.4%	17	51.5%	2	6.1%	33
小計	11	8.3%	38	28.8%	73	55.3%	10	7.6%	132

特進1年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	2	5.4%	6	16.2%	29	78.4%	0	0.0%	37
協働性	1	2.7%	7	18.9%	29	78.4%	0	0.0%	37
探究力	6	16.2%	22	59.5%	8	21.6%	1	2.7%	37
発信力	8	21.6%	11	29.7%	16	43.2%	2	5.4%	37
小計	17	11.5%	46	31.1%	82	55.4%	3	2.0%	148

特進1年3組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	1	2.9%	5	14.3%	27	77.1%	2	5.7%	35
協働性	1	2.9%	5	14.3%	26	74.3%	3	8.6%	35
探究力	4	11.4%	24	68.6%	7	20.0%	0	0.0%	35
発信力	7	20.0%	8	22.9%	14	40.0%	6	17.1%	35
小計	13	9.3%	42	30.0%	74	52.9%	11	7.9%	140

全クラス合計	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	7	4.3%	22	13.7%	119	73.9%	13	8.1%	161
協働性	11	6.8%	22	13.7%	117	72.7%	11	6.8%	161
探究力	17	10.6%	86	53.4%	47	29.2%	11	6.8%	161
発信力	25	15.5%	39	24.2%	71	44.1%	26	16.1%	161
小計	60	9.3%	169	26.2%	354	55.0%	61	9.5%	644

表 z 3 学期ルーブリック評価集計表

星城高等学校 SGL活動 ルーブリック評価集計表(3学期)

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	
主体性 自ら行動する力	班の中で自分の役割を理解し、実行できた。	自分の意見やアイデアを言葉にして班員に伝え、協議することができた。	班の中で自分の役割を理解し、実行できた。	自分の意見やアイデアを言葉にして班員に伝え、協議することができた。	
協働性 人々と繋がる力	班の中で与えられた自分の役割を実行できた。	他の班員の意見やアイデアに対して、班員全員で協議することができた。	班の中で与えられた自分の役割を実行できた。	他の班員の意見やアイデアに対して、班員全員で協議することができた。	
探究力 解決策を探る力	高齢者や外国人を対象としたテーマ設定ができた。	提言の根拠となる資料やデータ、グラフを調べることができた。	高齢者や外国人を対象としたテーマ設定ができた。	提言の根拠となる資料やデータ、グラフを調べることができた。	
発信力 相手に伝える力	原稿を見ながら聴衆に向けて、自分の伝えたいことが発信できた。	原稿を見ずに聴衆に向けて、自分の伝えたいことが発信できた。	原稿を見ながら聴衆に向けて、自分の伝えたいことが発信できた。	原稿を見ずに聴衆に向けて、自分の伝えたいことが発信できた。	
仰星1年1組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	1 3.7%	3 11.1%	13 48.1%	10 37.0%	27
協働性	3 11.1%	4 14.8%	10 37.0%	10 37.0%	27
探究力	2 7.4%	5 18.5%	11 40.7%	9 33.3%	27
発信力	1 3.7%	8 29.6%	10 37.0%	8 29.6%	27
小計	7 6.5%	20 18.5%	44 40.7%	37 34.3%	108
仰星1年2組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	0 0.0%	5 17.2%	13 44.8%	11 37.9%	29
協働性	0 0.0%	2 6.9%	12 41.4%	15 51.7%	29
探究力	0 0.0%	3 10.3%	9 31.0%	17 58.6%	29
発信力	0 0.0%	7 24.1%	15 51.7%	7 24.1%	29
小計	0 0.0%	17 14.7%	49 42.2%	50 43.1%	116
特進1年1組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	2 5.6%	4 11.1%	18 50.0%	12 33.3%	36
協働性	0 0.0%	8 22.2%	20 55.6%	8 22.2%	36
探究力	0 0.0%	12 33.3%	17 47.2%	7 19.4%	36
発信力	2 5.6%	16 44.4%	14 38.9%	4 11.1%	36
小計	4 2.8%	40 27.8%	69 47.9%	31 21.5%	144
特進1年2組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	1 2.8%	10 27.8%	16 44.4%	9 25.0%	36
協働性	0 0.0%	12 33.3%	13 36.1%	11 30.6%	36
探究力	1 2.8%	4 11.1%	22 61.1%	9 25.0%	36
発信力	0 0.0%	18 50.0%	12 33.3%	6 16.7%	36
小計	2 1.4%	44 30.6%	63 43.8%	35 24.3%	144
特進1年3組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	2 5.7%	5 14.3%	13 37.1%	15 42.9%	35
協働性	2 5.7%	8 22.9%	14 40.0%	11 31.4%	35
探究力	0 0.0%	7 20.0%	18 51.4%	10 28.6%	35
発信力	0 0.0%	13 37.1%	14 40.0%	8 22.9%	35
小計	4 2.9%	33 23.6%	59 42.1%	44 31.4%	140
全クラス合計	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数
主体性	6 3.7%	27 16.6%	73 44.8%	57 35.0%	163
協働性	5 3.1%	34 20.9%	69 42.3%	55 33.7%	163
探究力	3 1.8%	31 19.0%	77 47.2%	52 31.9%	163
発信力	3 1.8%	62 38.0%	65 39.9%	33 20.2%	163
小計	17 2.6%	154 23.6%	284 43.6%	197 30.2%	652

全体集計 (%)

	1 学期	2 学期	3 学期
レベル 4	4%	10%	30%
レベル 3	27%	55%	44%
レベル 2	49%	26%	24%
レベル 1	20%	9%	2%

これは「花溢れる街づくりプロジェクト」での花植え活動で生徒が主体性を発揮するとともに、高齢市民をはじめ自治会などの地域の人々やベトナム人市民、コンソーシアムに入っている豊明高校の生徒たちと協働して花植えに取り組んだ結果であると言える。

3 学期の「探究活動」では 1 学期や 2 学期と比べてレベル 4 の割合が高く、全体のほぼ三分の一の生徒がレベル 4 の自己評価をしている。レベル 3、4 を合わせた数で見ると、1 学期が 31%、2 学期が 65%、3 学期が 74% となり、3 学期の「探究活動」で生徒に SGL 活動の自己評価をレベル 3、4 へと高めるといふ好ましい変容が見られた。その要因としては評価項目の「探究力」の自己評価が上がったことが挙げられる。これは各班が課題解決策を自分たちで主体的に考えて提言をまとめ、ポスター作成にあたったことを意味している。

イ 評価項目別集計より

SGL 活動として、1 学期は外国人市民との多文化共生と高齢市民の健康福祉に関する基本的な「学習活動」を行い、2 学期は「花溢れる街づくりプロジェクト」による花壇づくりと花植えの「実践活動」をして、3 学期は次年度に向けて「外国人市民との多文化共生」と「高齢市民の健康福祉」を推進するため自分たちとして何をしたいかを提言としてまとめる「探究的活動」を行った。評価項目別に各学期の自己評価の特徴や生徒の変容を分析し、要因について協議することによって SGL 活動の改善に役立てていきたい。

(ア) 主体性(自ら行動する力)

	1 学期	2 学期	3 学期
レベル 4	6 %	8%	35%
レベル 3	24%	74%	45%
レベル 2	47 %	14%	16%
レベル 1	23%	4%	4%

1学期は、多文化共生や高齢者健康福祉の講座を受けて、講座内容を理解し自分の考えをまとめるというレベル2が最も多く、講座に関わる活動を通じて「主体性」の基礎づくりがなされたと言える。2学期は、外国人児童の日本語教室や高齢市民の大金星体操（認知症予防体操）の支援活動をしたり、「花溢れる街づくりプロジェクト」に取り組んだりした結果として、地域の人々と交流しながら活動できたとするレベル3以上の生徒が82%であったのは大きな成果である。次年度の花植えに備えて地域の皆さんとコミュニケーションを取り合い、花壇管理をサポートできる生徒がさらに増えることを期待している。3学期は、花溢れる街づくりを総括すると同時に、次年度に向けて「外国人市民との多文化共生」と「高齢市民の健康福祉」を推進するために自分たちは地域協働活動として何をしたいかの提言をまとめる探究活動を行った。提言のためのポスター作成でデータ収集と協議が積極的に行われ、レベル4の生徒が初めて2桁を超えて35%となり、レベル3とレベル4を合わせて80%となった。レベル2の自分の意見やアイデアを伝えられた生徒も含めると、96%の生徒が自分たちで主体的に提言づくりに取り組んだことになる。特に2学期では花植え活動に取り組む「主体性」が高く、3学期では課題解決に向けた活動を自分たちで考えて創り上げていくという「主体性」が高いことがわかった。

1学期の「学習活動」・2学期の「実践活動」・3学期の「探究的活動」を通じて、実施内容によって主体性の中身は変わるけれども、レベル3以上の割合は1学期30%、2学期82%、3学期80%と推移しており、生徒はグローバル・リーダーに望まれる指標である「主体性」を着実に身に付けてきている。

(イ) 協働性(人々をつながる力)

	1学期	2学期	3学期
レベル4	7 %	7 %	34%
レベル3	46 %	73%	42%
レベル2	40 %	14 %	21%
レベル1	7 %	7%	3%

1学期は、多文化共生や高齢者健康福祉の講座を通じて、話し合いの場面で相手の意見を理解・尊重して意見を交わすというレベル3、2が最も多く、「協働性」の基本的な姿勢づくりがなされた。2学期は、地域の人々と一緒に花壇づくりをし、花植えができたというレベル3以上の生徒が81%いて、花植えプロジェクトに対する生徒の積極的な姿勢がわかる。ただし、花植え後も地域の

人々と何らかの交流がある生徒の数は、レベル4の7%であったことから少ないと言える。花植えを一過性の活動としないための工夫が必要である。3学期は、次年度に向けた地域協働活動の提言づくりに対して、班内全員で協議できたレベル3の42%と、根拠に基づく意見集約ができたレベル4の34%を合わせて76%となり、班員同士が協力してつながり、班の発表用ポスターができたことがわかる。

1学期の「学習活動」・2学期の「実践活動」・3学期の「探究活動」を通じて、実施内容によって協働性の中身は変わるけれども、レベル3以上の割合は1学期53%、2学期80%、3学期76%と推移しており、生徒はグローバル・リーダーに望まれる指標である「協働性」についても着実に身に付けてきている。

(ウ) 探究力(解決策を探る力)

	1学期	2学期	3学期
レベル4	3%	7%	32%
レベル3	23%	29%	47%
レベル2	48%	54%	19%
レベル1	26%	11%	2%

1学期は、多文化共生や高齢者健康福祉の講座を通じて、指示された課題に対して調べ学習をし、調べた内容をもとに自分の考えをまとめるレベル2、1が最も多く、自分で課題を見つけたり、自分で解決策を考えたりするところまで達したレベル3、4の生徒は四分の一程度であった。「探究力」の基礎づくりの期間と位置づけることができる。2学期は、外国人市民との多文化共生と高齢者の健康福祉の視点から外国人市民や高齢市民に花植えに参加してもらい、まずは外国人市民や高齢市民とのつながりをつくり、両市民が輝くためのSGL活動に向けた土台づくりをするという位置づけで行った。実際の花壇づくり作業面の取組が中心となるレベル2が54%と最も多く、次いで花植えを説明して参加者を募る活動であるレベル3が29%であった。花植えと地域課題解決とのつながりまで考えて花植え活動に参加したレベル4の生徒は7%と少なくプロジェクトの進め方の大きな反省材料となった。花植えを単なるイベント活動としないための工夫が必要である。3学期は、班単位で提言のまとめ・ポスター作成及びポスター発表を行った。次年度に向けた地域協働活動の提言づくりに対して、提言の根拠となるデータ収集が行えたレベル3が47%で、提言の発表ポスターに根拠資料としてグラフ等を使って効果的な形で示すこと

ができたレベル4が32%であり、レベル3、4を合わせて79%となった。これは各班が課題解決策を自分たちで主体的に考えて提言をまとめ、ポスター作成に反映できたことを意味している。

「探究力」のレベル3以上の割合は1学期26%、2学期36%、3学期79%と推移しており、生徒はグローバル・リーダーに望まれる指標である「探究力」を着実に身に付けてきている。1学期に行った机上の知識による課題の発見と解決に向けた探究力に比べ、3学期の課題解決のための提言づくりに向けた探究力は向上している。2学期の花植え活動により「地域とのつながり」を持たたという経験を通じて、3学期での次年度に向けた地域協働活動の提言づくりにおいて、外国人市民や高齢市民に関わる課題を自分たちに身近な問題として捉えており、自分たちでも地域の人たちと一緒に現状を変えられるかもしれないという思いなどが好影響を及ぼして、探究レベル3、4を合わせて79%となったとも考えられる。

(エ) 探究力（解決策を探る力）

レベル4	2%	16%	20%
レベル3	15%	44%	40%
レベル2	61%	24%	38 %
レベル1	22%	16 %	2%

1学期は、多文化共生や高齢者健康福祉の講座を通じて、各班で課題に対する自分の考えや意見を伝えることができたというレベル2が61%と最も多く、「発信力」の基本的な姿勢づくりがなされた。2学期は、地域の人々と一緒に会話をしながら花壇づくりや花植えができたというレベル3の生徒が44%が一番多かった。しかし、コミュニケーションが花壇づくりや花植え以上の会話にまで発展したレベル4は16%にとどまった。参加者と人間関係を築き、その関係を次の協働活動につなげるという全体像が欠けている生徒が多くいたことが次に向けての反省材料として挙げられる。やはり、花植えを一過性の活動としないための指導上の工夫が必要である。3学期は、ポスターセッションで原稿を見ずに提言を発表できたレベル3が40%で、質疑に的確に答えることによって提言を説得力を持って発表できたというレベル4が20%いて、レベル3、4を合わせて60%となった。

1学期の「学習活動」・2学期の「実践活動」・3学期の「探究的活動」を通じて、レベル3以上の割合は1学期17%、2学期60%、3学期60%と推移しており、グローバル・リーダーに望まれる指標である「発信力」について、課題

はあるが生徒は徐々に身に付けてきている。

(2) 目標設定シートの達成状況

地域との協働による高等学校教育改革推進事業の本校の目標設定シートにおける 2021 年度の目標値と 2019 年度の達成状況を表で示す。

ア SGL 活動において実現する成果目標について

目標項目	社会貢献・ボランティア活動参加者	海外研修参加率
目標値	360 人	100 %
達成状況	577人（1年生全体）	33.3%（51人） 3学期オーストラリア留学中止

1年生の仰星コースと特進コースの170人がSGL活動の「花溢れる街づくりプロジェクト」として花壇づくりと花植え活動を実施した。コンソーシアム所属機関の豊明市とスギ薬局が協働して行っている高齢市民向けの介護予防体操教室に参加し生徒114人が一緒に体操をして交流をした。豊明市立双峰小学校内にある二村会館で生徒54人が外国人市民のこどもに日本語学習をはじめとする学習支援を行った。その他にSGL活動の一環として行った24時間テレビでの募金活動や豊明市の秋祭や総合防災訓練に58人が参加した。SGL活動とは別に、1年生181人がボランティア清掃を行った。社会貢献活動として少年バレーボール教室に4人が参加し、少年剣道教室で13名が指導補助を行った。その結果、実に577人もの生徒が社会貢献活動やボランティア活動に参加し地域貢献をすることができた。

アメリカ短期留学に21人が参加した。SGL活動としてマレーシア研修に30人が参加した。グループでテーマを設定してフィールドワークを行い、グローバルな視野を養うことができた。

令和2年3月に仰星コースと特進コースの生徒15人が参加を予定していたオーストラリア短期留学は、新型コロナウイルス感染拡大により中止となった。

イ 地域人材を育成する高校としての活動指標

目標項目	活動発表年間実施回数	英語運用能力がCEFRのB1以上の生徒の割合
目標値	5回	50%
達成状況	2回（3学期臨時休校で延期）	10%（17人）

SGL 活動の成果発表会を開催し文部科学省の安彦広斉高等学校改革推進室

長より高評をいただく予定であったが、コロナウィルス感染拡大防止のための臨時休校措置により開催延期とした。英検 2 級以上が CEFR の B1 以上に相当する。仰星コースと特進コースの 1 年生（170 名）の 10%の 17 名であった。17 名の中で 2 名は準 1 級を取得している。

ウ 地域人材を育成する地域としての活動指標

目標項目	コンソーシアム会議 実施回数	地域活動参加者の 外国人・高齢市民数
目標値	4 回	100人
達成状況	2 回 (3 学期臨時休校で中止)	394人 (外国人市民180人、高齢市民214人)

3 月のコンソーシアム会議は新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休校のため中止とした。地域活動参加者数については、SGL 活動の「花溢れる街づくりプロジェクト」としての花壇づくりと花植え活動に高齢市民が 70 人、ベトナム人家族等が 30 人参加した。その他として、本校生徒関わった日本語教室に外国人児童が延べ 150 人参加し、豊明市とスギ薬局が協働して行っている高齢市民向けの介護予防体操教室に延べ 144 人が参加した。

8. 校内運営組織における研究開発実施上の課題及び来年度の構想

研究開発のための校内運営組織の充実を図るという観点から、SGL 開発部会等で取り上げられた反省と課題を列挙したうえで、来年度の校内運営組織の構想案を示すことにする。

(1) 反省と課題

- ① 生徒の主体的、探究的な取組としての地域協働活動となっているか。教員主導の地域協働と協創から、生徒主体の地域協働と協創へと探究活動を深めていく必要がある。
- ② 生徒にとって魅力のある活動内容となっているか。活動の始動から生徒が前面に出る活動にするなど、生徒にとって魅力のある活動内容にする必要がある。
- ③ グローカルの学びとなっているか。「グローバルな視点での学び」、「地域課題に向けた提言・企画・実践の探究学習プログラム」、「地元地域での地域協働プログラム」のそれぞれが単発で、結びつきを感じない学びとならないよう有機的な学びにする必要がある。
- ④ 目標設定項目の達成に近づいているか。生徒の自己評価、授業評価を検証することにより、生徒の変容を明らかにしていく必要がある。
- ⑤ 探究活動や協働活動に関して、生徒の探究活動に資するように教員の指導力が図られているか。次年度の地域協働探究活動（地域協働案の策定、実行など）につなげるための教員の指導力とは何かを明確にする必要がある。
- ⑥ コンソーシアム構成機関との連携が十分に図られていたか。各コンソーシアムとの協働・協創による SGL 活動とするための研究開発をさらに充実させる必要がある。
- ⑦ SGL 活動の取組成果を普及するために、外部に向けての発信が十分に行われたか。特に、本校ホームページを利用した情報発信を充実させる必要がある。

(2) 来年度の構想

① SGL 開発会議

校長、副校長、学監、教頭、SGL 主任、中等教育研究所顧問で構成され、週 1 回の定例会議を設定する。事業計画の立案・運営、コンソーシアム等連携先との連絡・調整、事業経費予算・執行、校内関係部署との連絡・

調整、事業の検証・評価及び研究、改善に向けた企画・立案等、研究開発の中核をなす機関として組織されている。

来年度は、定例会議での協議事項を提案する組織の機能充実を図りたい。一つは、SGL 活動事務局（教頭・SGL 主任・副主任）の機能を充実させることであり、事務局に新たに学監（SGL 担当）を加え、主任を二人体制（「地域協働・広報・探究学習」担当・「SGL 語学・海外研修・探究学習」担当）とすることにより、コンソーシアム構成機関との連携計画・連携状況や探究学習の研究開発案等を開発会議に速やかに提示し、問題点を協議できる体制の充実を図りたい。もう一つは、校内の分掌組織としての SGL 開発部の創設であり、そのねらいについては、③として後に示すこととする。

② SGL 実行委員会

教頭、SGL 主任、担任、（仰星コース・特進コース 1・2 年）、教員（外国語）で構成し、週 1 時間を時間割上に設定する。地域協働事業に係る探究活動、探究に基づく地域との協働活動、個々の活動の検証・評価（アンケート実施等）、個々の活動の記録等、生徒の探究活動に直接関わる推進チームとして組織されている。

研究開発 1 年目の今年度は、SGL プログラムの定着を図るために、毎週 1 回の定例会議を SGL 活動事務局からの説明・連絡を中心に進めざるを得なかった。来年度は、教員一人一人が SGL 活動推進チームの一員であるという意識を一層高めるためにも、研究協議を中心とした会議運営とする必要がある。特に、生徒の主体的、探究的な取組とするための工夫や方策について、毎週の協議テーマを明確に示したうえで議論を深め、SGL 担当教員としての指導力向上に繋がる場としても、実行委員会を機能させたい。また、研究 2 年目となる来年度は、今年度の SGL 活動の成果を 2 年生が 1 年生に継承し、探究活動の充実を図るために、学年間の連携が特に重要となる。2 月 15 日のポスターセッション形式での発表に向けて、各研究班が取り組んだ探究活動（「花溢れる街づくりプロジェクト」総括と「新たな地域活動」提言）の成果の継承を実効性のあるものとするために、今年度実施したループリック評価等の結果も生かしながら、学年間の連携を図る場として実行委員会を機能させたい。

③ SGL 開発部の創設

先に触れたように、来年度より校内の分掌組織として SGL 開発部を設置することとした。SGL 活動事務局として今年度の活動を推進した主任、副主任の 2 名を分掌主任とし、校務分掌として SGL 開発部に所属する教員

を配置する。これにより、定例の分掌会議が開かれ、SGL 開発会議への研究協議事項の提案、職員会議や主任会議への報告等の機会がスムーズに行われることで、学校全体に SGL 活動の取組成果が普及していくことが期待される。さらには、今後の大きな課題の一つである、教科横断的な探究学習に向けての研究開発に繋げるための端緒となることも期待される。

また、SGL 開発部が SGL 活動事務局とホームページ担当部署との連携の元に推進する取組として、本校ホームページを利用しての情報発信の充実を挙げたい。現在のホームメニューに設けられている「SGH アソシエイト活動」と「SGL 活動」のメニューの融合を含めた活用方法の検討を行い、活動の記録や紹介はもちろんであるが、(1)反省と課題の③に挙げた、「グローバルな視点での学び」、「地域課題に向けた提言・企画・実践の探究学習プログラム」、「地元地域での地域協働プログラム」のそれぞれを有機的に結びつけるために機能するような情報発信の提案がなされることを期待したい。

令和2年度第1学年SGL探究学習プログラム

外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト
CFTプロジェクト(花溢れる街づくりプロジェクト)
(Creating Flower Towns Project)

Think
Global

グローバルな SDGs・健康福祉
視点での学び 多文化共生・地域

星城高校
1年生
探究班



三崎区・桜ヶ丘区・
前後区・桶狭間区・
豊明団地自治会

地域協働コンソーシアム

- ①市民協働課
- ②健康長寿課
- ③産業支援課
- ④都市計画課
- ⑤土木課
- ⑥(株)スギ薬局
- ⑦(株)ARMS
- ⑧社会福祉協議会
- ⑨国際交流協会
- ⑩商工会
- ⑪青年会議所
- ⑫豊明高校
- ⑬星城大学

外国人市民との協働 + 高齢市民との協働

Act
Local

地域協働プログラム
スギ薬局大金星体操支援
子ども日本語教室学習支援

花溢れる街づくりプロジェクト

6月
春の花植

10月
秋の花植

2月
提言発表

令和2年度第2学年SGL探究学習プログラム

外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト

CLPプロジェクト(地域協働街づくりプロジェクト)

(Creating Local Partnerships Project)

Think
Global

グローバルな
視点での学び

SDGs・健康福祉
多文化共生・地域

星城高校
2年生探究班



地域協働
コンソーシアム

Class①
×
ARMS
(株)

Class②
×
スギ薬局
(株)

Class③
×
社会福祉
協議会

Class④
×
国際交流
協会

Class⑤
×
青年会議所
商工会

・星城大学
・秋祭り
実行委員会

・健康長寿課
・豊明高校

・社会福祉課
・防災対策課
・老人ホーム

・市民協働課
・国際交流
フェスタ

・産業支援課
・観光協会

外国人市民が輝く

高齢市民が輝く

Act
Local

新たな地域協働活動の協創

5月～8月
提言・協議

9月～12月
準備・実践

1月～2月
終結・発表

『外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト』

2019 年度活動について

名古屋大学 国際開発研究科
特任助教 古藪 真紀子
(海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員)

はじめに

文部科学省が推進する「2019 年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業」により開始された、星城高等学校の『外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト～新たなコミュニティーを協創するスーパーグローバル・リーダー(SGL)の育成～』(以下 SGL プログラム)は、「地域社会(豊明市)において、様々な立場の市民の繋がりを深める新たな架け橋を共生・協働という観点から協創することができる地域のリーダーの育成」を目的として開始された。「多文化共生」「健康福祉」「コミュニケーション力」の3つのアプローチを基本に、「グローバルな視点での学び」と「ローカルな視点での活動」を通して、①異なる考えを容認し、共生しようとする人間、②他者と協働して問題解決を図ろうとする人間、③自らの考えを発信して多くの人々と新たなものを協創できる人間、④人との繋がりを大切にし、感謝のできる実践力に富んだ地域のリーダーの育成を目指している。本項では、海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員として SGL プログラムに関わった筆者が、2019 年度の SGL プログラムの活動を、1. 座学・地域活動、2. 花植え活動、3. 海外研修(マレーシア)に分けて考察し、4. 今後に向けた提案を行うこととする。

1. 座学・地域活動

SGL プログラムの主な活動は、座学とボランティア活動などの地域活動で構成されている(図1)。座学については、講演会、ロジカル・シンキング、ロジカル・フレームワークの3分野で構成された。まず、講演会については、「多文化共生」・「健康福祉」に関連する NPO 法人プラス・エデュケートなどの市民団体、豊明市役所を始めとした行政機関や、株式会社 ARMS、株式会社スギ薬局などの企業から幅広く講師を招聘し、様々な視点でお話し頂いた。ロジカル・シンキングでは、生徒のコミュニケーション力や交渉力の習得を目的に、ディベート手法の学習が取り入れられた。ロジカル・フレームワークでは、多文化共生に関する基礎学習並びに、SGL プログラムが、「持続可能な開発目標(SDGs)」に深く関連していることから、SDGs の基礎講座が実施された。これら一連の座学は、生徒の

幅広い知識の習得に役だったと言える。地域活動については、株式会社スギ薬局の協力を得て、高齢者の健康増進のために実施されている「大金星体操」や、豊明市役所の実施する総合防災訓練などへ生徒がボランティアとして参加した。

これらの活動を通して、SGLプログラムの目標とする「スーパーグローバル・リーダーの育成」に必要な基礎的な知識・能力・経験がみについたと言える。しかしながら、生徒にとって、講演会などの座学や地域活動が、単発的な点としての経験に留まっており、それら得た知識や経験から、地域の課題を発見するという、その先の活動（探求活動）につながっていない事が、講演会や地域活動後のアンケートや聞き取りによって分かった。よって、個々の活動を点から面につなげる為に、1) 事前学習と2) 事後学習の充実を提案する。事前学習に関しては、講演会や地域活動の内容をより効果的に理解するために、多文化共生や健康福祉に関する基礎講座の実施が考えられる。事前に、多文化共生とは何か、健康福祉とは何か、世界ではどうなっているか、日本ではどうなっているかなどの全体像を知り、豊明市の現状について、講演会等を通して理解するというステップが必要であると考え。また、事後学習に関しては、知識や経験のさらなる定着を目的とし、活動ごとにクラス単位で、共通フォーマットを使ったポイントの整理を行う「振り返り」時間を持つことが重要である。

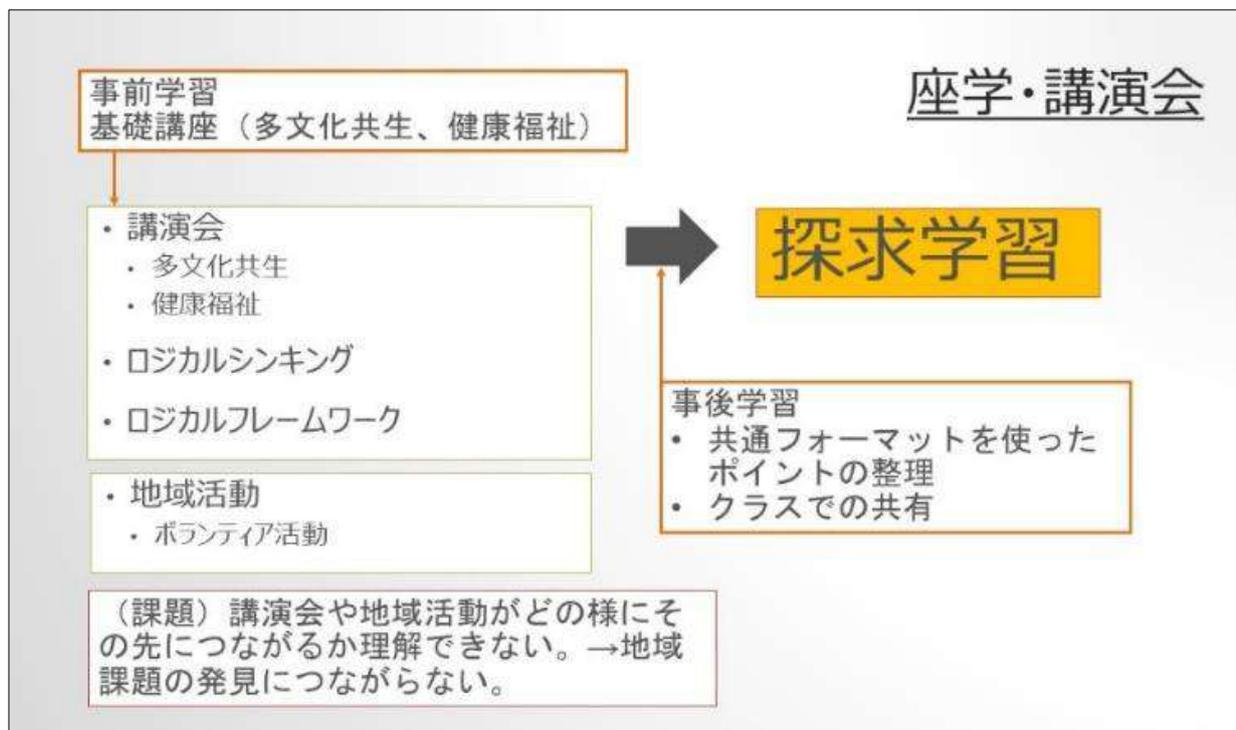


図 1. 座学・講演会

2. 花植え活動

豊明市には、アジアで最大の取引量を誇る「愛知豊明花き市場」がある。この地域特性を活かし、豊明市を花溢れる街にするために、2019年度 SGL プログラムの中心活動として、「花溢れる街づくり」プロジェクトが実施された。これは、生徒が高齢市民や外国人児童と一緒に「花溢れる街づくり」を推進することを通して、人とのつながりを作っていく事を目的とした活動である。10月19日（土）に外国人市民が多く住む豊明団地、三崎水辺公園や名古屋鉄道の前後駅などの5地区で実施された。当日は、豊明市長なども参加したオープニング・セレモニーを前後駅前で行われ、外国人児童や高齢市民など約100名の地域住民が花植え活動に参加した。

本活動では、実際の花植えだけでなく、花壇設置場所の選定、敬老会を中心とした高齢市民へのプロジェクトの説明と参加依頼、花の種類や数の検討・購入などの事前準備作業の全ての段階で、生徒の参画が見られたことは、高く評価できる。しかし、筆者の参与観察から、様々な課題が明らかになった。まず、SLGプログラムの活動の中で、初めての大プロジェクトであった事から、花壇設置場所の決定に係る行政機関等との交渉や、敬老会との話し合いなど、複雑な部分については教員が請負、ある程度の筋道を立てた上で、生徒に指示を出すという経緯で進められた。そのため、生徒は「やらされている感」が強く、「花を植える事」が目的・ゴールとなり、「花を植える事」を手段として「人とのつながりを作る」という本来の目的が達成できなかつたと考えられる。この様に「花を植える事」がゴールとなった結果、作業中の外国人児童や高齢市民とのコミュニケーションは花の植え方などの必要最低限に留まった。プロジェクト終了後の生徒のアンケートや振り返りでも「外国人児童や高齢市民と、十分なコミュニケーションをとることができなかった。」というコメントが多くみられた。また、花壇は完成したものの、どの様にメンテナンスを行い綺麗に維持していくかという課題も浮上した。さらに、花植え活動は、各チーム6名ほどのグループで実施されたが、積極的に参画している生徒はグループリーダーなどの役割を持つ者が多く、最低限の参画（あわよくば、貢献しない）に留まる「フリーライダー」が少なからず見受けられた。

これら明らかになった課題を解決するためには、いかに生徒の「主体性」を促進する事ができるかが鍵となる。そこで、地域活動において、生徒提案の地域活動（プロポーザル型公募）の実施が考えられる。教員側が考えた地域活動ではなく、自ら地域の課題を考え、それを解決するための活動を計画することで、地域活動を「自分事」としてとらえ、「主体性」をもって、計画・実施することができると考えられるからである。その実施の過程において、ステークホルダーと

のコミュニケーションは必要不可欠であり、協働することで、地域活動の本来の目的である、「人との繋がりを作る」ことが可能となると考える。

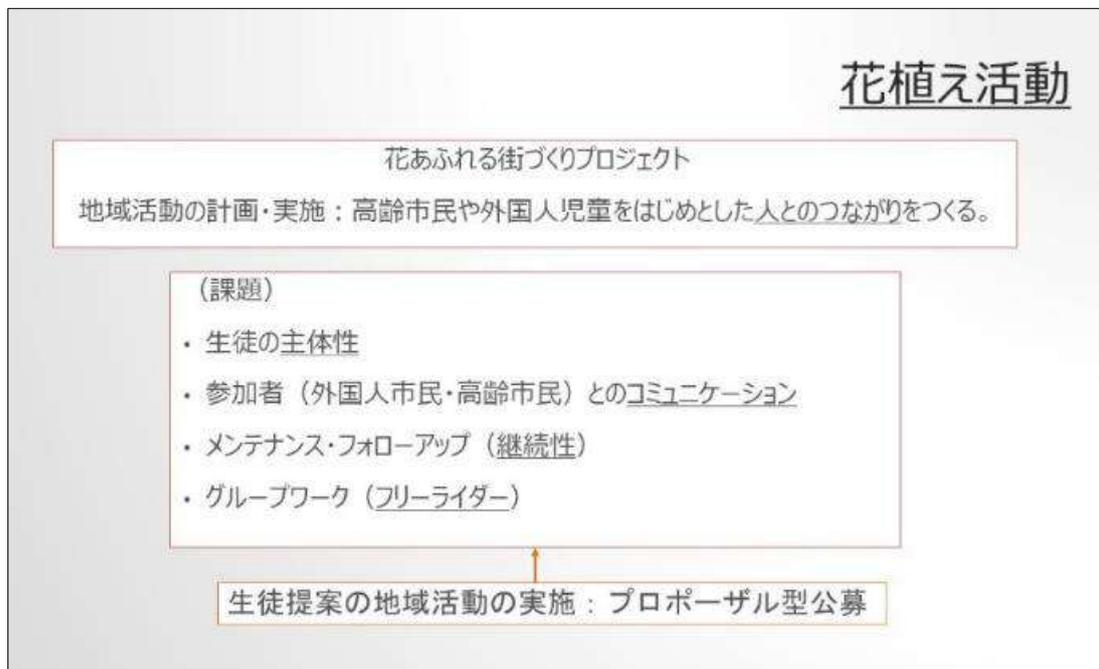


図 2. 花植え活動

3. 海外研修（マレーシア）

SGL プログラムの「グローバルな視点での学び」をより深く追求するために、「マレーシア海外研修」が 12 月に 7 日間にわたり実施された。「多文化共生」・「健康福祉」における課題に、グローバルな視点を持って取り組むことができるように、海外での視察を通して理解を深める事が目的であった。参加者については、希望者に対して選考テストが実施され、最終的に 30 名の参加が決定された。

現地マレーシアで、生徒のより深い学びのために、図 3 の通り、研修は三段階で構成された。STEP1 では、事前研修として、マレーシアの基礎情報を座学で学ぶと共に、グループ活動の元となるチームビルディングに重きを置いた活動を実施した。まず、日本（豊明市）と比べてみたい事を「多文化共生」や「健康福祉」の観点から、グループ（各 6 名×5 グループ）で話し合っ決めて。各グループからは、建造物、衣食住、民族・文化の平等、教育、健康福祉、など多岐にわたるテーマが提案された。これらのテーマ別に、①同一性（マレーシアにも豊明市にもあるもの）、②違い（マレーシアにあって豊明市にないもの）、③取り組み（マレーシアから学び豊明市に紹介したいもの）について、何を（内容）、何処で（場所）、どの様に（方法）、誰が集めるか（担当）などを情報収集シートと

また、それぞれのテーマについての個人のイメージをコラージュ¹で表現した。コラージュによって可視化することで、生徒それぞれがマレーシアについて感じるイメージをグループ内で共有することが容易となった。STEP2は、マレーシアでの現地研修で、第一段階で作成した情報シートを元に、様々な情報を収集した。海外研修後のSTEP3として、現地での学びを、今度はグループでコラージュとして可視化した。研修前の主にガイドブックや旅行会社などのパンフレットから材料を切り抜き作成した個人のコラージュとは違い、生徒が自ら現地で収集した写真や情報が使われたため、よりグループ・個人の考えを表現できるものが仕上がったと言える。このように、出発前と研修後にコラージュを制作したことで、マレーシアやそれぞれのグループのテーマに関する認識や理解の変容を比べることができた。

筆者は、本海外研修の実実施計画の助言を行うと共に、STEP1とSTEP3の事前・事後研修に関与した。事前研修で、チームビルディング重点を置いたグループ活動を実施したため、現地での研修時には、十分なチームワークが構築されていたと言える。また、情報収集シートの活用と、研修後のグループでのコラージュ作成の目的が、生徒に十分理解されていたため、現地での研修が単なる観光旅行ではなく、研修として、生徒が効果的に学習・経験することができたと思われる。この様に、段階を踏んだ学習計画をしかし、訪問先でのインタビューなどで何を知りたいかがきちんと整理できておらず、情報の取りこぼしがあったと思われることから、事前の質問票の作成を提案したい。また、グループワークで見られがちな「フリーライダー」が多少見られたことも否めない。ピアレビューを導入し、グループ内でそれぞれを評価することで、それぞれが自身の活動について見直すことができるため、効果的であると考えられる。

4. 今後に向けた提案

SGLプログラムは、ここまでに述べてきた通り、座学、地域活動や海外研修などを通して、新たなコミュニティーを協創するスーパーグローバル・リーダーの育成に十分貢献していると言える。しかし、SGLプログラムの活動を通して、生徒が習得した知識や経験は、図4のようにスパイラルな蓄積となる必要がある。

¹ コラージュとは、現代絵画技法の一つで「糊付け」を意味し、アートとして定着している。作品に使用するパーツや構図を考えることで、自分／グループの考えや主張を整理して明確にし、全体を可視化することができる。

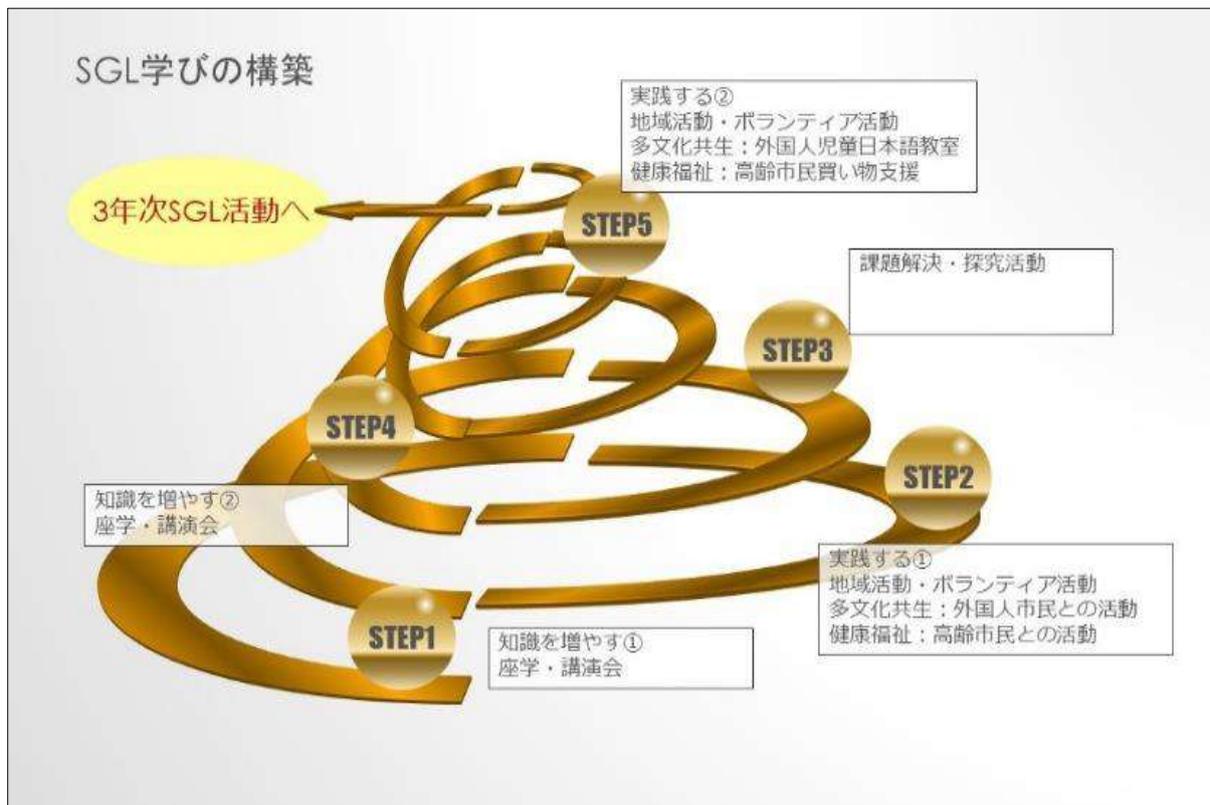


図 4. SGL 活動：学びの構築

このように、それぞれの活動が点ではなく面になり、積み上げられていくために、先述の活動を含め、以下の通り提案する。

(1) 「グローバルな視点での学び」

- ・SDGs 基礎と発展講座の提供

第 1 学年で SDGs の基礎を学び、第 2 学年で発展講座を実施する。参加型で SDGs を学ぶことができる教材 (SDGs カードゲーム X (クロス)²など) を使って、SDGs を自分事としてとらえられるようになることを目的とする。

- ・海外研修にピアレビューの導入

海外研修における「フリーライダー」回避のため、グループ内の生徒同士でメンバーを評価する。高い評価を得れば、その生徒のモチベーションにつながる。低い評価であれば、自分の研修に対する姿勢を見直すことができる。

- ・修学旅行としての海外研修

² 『SDGs をもっと身近に、もっと楽しく、一人ひとりのアクションにつなげるために』、金沢工業大学で社会課題解決型ビジネス (SDGs/BoP/ソーシャルビジネス) の研究をおこなう SDGs Global Youth Innovators とリバープロジェクトによる有志チームにより開発されたカードゲーム (Rebirth Project, <https://www.rebirth-project.jp/the-sdgs-action-cardgame-x/>)

マレーシア海外研修は、希望者のみの参加であったが、「グローバルな視点での学び」を全学に提供するためには、現存の修学旅行の海外研修化が望まれる。そのためには、マレーシア海外研修での生徒の深い学びをどのように担保するかが課題となる。

(2) 「ローカルな視点での活動」

・講演会における事前・事後学習の導入

ただ座って聞いていればよいという講演会では、講演者より提供された幅広い情報を理解し、知識として蓄積することは困難である。これらの情報を生徒の深い学びにつなげるために、講演前に基礎知識を提供し準備すると共に、講演後に、クラス単位で共通フォーマットを使った学びの「振り返りと共有」が必要である。

・プロポーザル型地域活動の公募

探究学習にとって重要な学びの一つは「主体性」である。この「主体性」を引き出すために、生徒の提案（プロポーザル型）による地域活動の実施が考えられる。生徒自身が地域の課題を深掘りし、その課題解決のための活動を計画することで、その活動が「自分事」となり、計画・立案・実施・評価の全てのサイクルを活動に賛同するグループで実施することで、生徒の「主体性」が育つと考えられる。

・多文化・異文化でのコミュニケーション能力強化

ここで言うコミュニケーション能力とは語学能力ではなく、生徒自身とは違う文化背景において、自身を表現することができる能力である。上記、プロポーザル型の地域活動を実施することで、必然的に異文化・多文化間においてコミュニケーションをとらなくてはならない状況となる。円滑なコミュニケーションに必要な背景学習・準備が能力強化につながると考える。

(3) 「地域課題の発掘」

・アクティブラーニングの導入

探究学習は教員が設定したグループ毎に実施される。よって、チーム構成は必ずしも生徒が望むものではなく、初めて関わる人がメンバーにいるかもしれない。その為、その後のグループ活動をより円滑に実施するためには、初期のチームビルディングが重要となる。「計画・立案」など「グループ力」を強化することができるアクティブラーニング手法を使った学習が効果的であると考える。また、グループワークで見られがちな、「フリーライダー」をなくすために、ピ

アレビューの導入も合わせて提案したい。

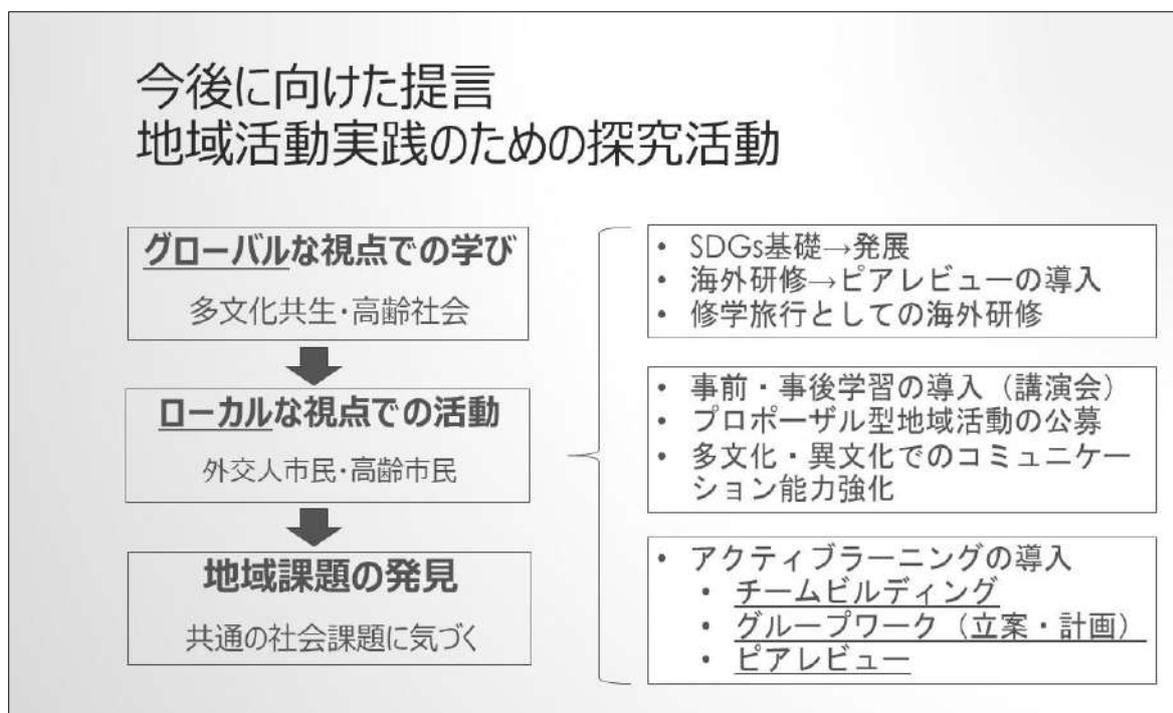


図 5. 地域活動実践のための探究活動

おわりに

2019年度より星城高等学校で実施されたSGLプログラムは、豊明市において、市民団体、行政組織や一般企業などの様々なステークホルダーを巻き込んで、「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」を実施してきた。2019年度は、初年度という事で、教員側も手探りでプログラムを実施してきたこともあり、それぞれの活動において、先述の今後に向けた提案にある通り、改善の余地はある。しかし、独自性の高い座学や地域活動などを通して、生徒が地域（豊明市）について深く知り、考えるようになったことは、SGLプログラムの最初のステップとして高く評価できるものである。また、地域の抱える課題を冷静にとらえ、生徒の探究学習を通して、地域課題の解決に取り組むことで、地域社会と生徒の「ウィンウィン」の関係が構築されつつあるのではないかとと思われる。今後、生徒がどのような課題解決策を提案してくるのか、実施してくれるのか楽しみである。

講 評

星城高等学校 参与 伊藤 泰臣

1. はじめに

令和2年1月6日の現職研修において弓場将司教諭から発表のあった「SGL活動報告」は、まさに手探りするように積み上げてきた今年度の取組の現時点での到達点を示し、今後の研究開発で取り組むべきいくつかの課題を、全職員が共有するための意義ある機会となった。弓場教諭の報告の骨子に沿って、4月からスタートしたSGL活動を振り返るなかで、私が特に印象に残った何点かを取り上げることで、今後の研究開発へつなげる一助としたい。

2. 生徒育成の目標について

今後の研究開発で取り組むべき課題を整理するうえで、現職研修にお越しいただいた名古屋大学大学院国際開発研究科特任助教の古藪真紀子氏の御講評は、大変貴重であった。地域での諸活動はあくまでも「ツール」であり、常に「目的は何か」を心に留めること。SGL活動の取組を進めるにあたり、実施計画に掲げた「①異なる考えを容認し、共生しようとする人間、②他者と協働して問題解決を図ろうとする人間、③自らの考えを発信して多くの人々と新たなものを協創できる人間、④人との繋がりを大切にし、感謝のできる実践力に富んだ地域のリーダー」という生徒育成の4つの目標との繋がりを、常に意識しなければならない。古藪氏から示された、対話を深めるための「質問票の作成」、自分がどう見られ評価されたのかを認識するための「ピアレビューの導入」、フリーライダーを減らすための「生徒提案の地域活動」等のキーワードからは、生徒育成の目標との繋がりのなかで諸課題を解決していくための、具体的なヒントを与えていただいた。

3. コンソーシアムについて

本研究の柱ともいえるべき「地域協働コンソーシアムのパートナーシップ」について、4月の研究指定採択時に、文部科学省の企画評価会議類型別部会協力者から示された所見を、改めて確認しておきたい。「地域の課題を「外国人」「高齢者」という切り口から絞り込んだうえでのカリキュラムとなっていることから教育目的が明確である。地域特性を背景に、両者の関連性を見いだす教育カリキュラムが期待できる。コンソーシアムの構成機関を、効果的に活用するプログラム

が設定されている。教科への取込み方も「多文化共生学」「健康福祉」という明確なカテゴリーを打ち出している。」 SGL活動を進めるにあたり、地域協働コンソーシアムと交わした協定書に掲げた「地域のSDGs達成に向けて相互に協力および協働することにより地域社会の発展と人材育成に寄与する」という目的を、常に心に留めなければならない。その意味で、今年度の成果として挙げておきたいのは、1学期に実施された「SGL地域協創学Ⅰ」の学習内容の深さであり、コンソーシアムを構成する方々に担当していただいた授業は、記念館講堂の壇上からのお話でありながら、いずれも「対話的で深い学び」のお手本ともいえる学習活動となっていた。一例を挙げれば、「多文化共生学講演① 外国人労働者の現状」（5月18日・ARMS株式会社代表取締役濱島正好氏）では、日本で働いている外国人の現状や30年後の中部圏の社会情勢について考察したうえで、次のような問いかけがなされた。「外国人と一緒に生活するうえで、一番交じり合えない理由を5～10個書いてください」。すなわちそれは、「あなたのそれは認めるけど、私はできない」ことを明確にすることであり、実際の異文化交流のなかで生徒たちが直面する課題として意図された問いであり、無論答えは示されなかった。そして、そこで提示された課題は、同日に行われた古藪真紀子氏の授業「ロジカル・フレームワーク（多文化共生学）②」のなかでの、「多文化社会にあってはいけないものを10個書き出してみよう」という活動課題に連動されることとなり、グループワークによる生徒同士の学習活動を一層活性化させ、深い学びへと導いていたように思う。

4. 地域活動について（スギ薬局健康体操、花溢れる街づくりプロジェクト）

1学期に校内で集中的に行われた「座学」による学びを踏まえ、2学期から始まる地域活動を通してのカリキュラム開発が進められた。8月から12月に11回にわたり実施された「地域協働活動実践 スギ薬局高齢者大金星健康体操」は、「健康福祉学講演① 高齢者の健康福祉」（6月15日・株式会社スギ薬局企画室室長望月直人氏）の授業から開発されたプログラムであり、弓場教諭の報告のなかで紹介された動画のなかで、高齢者の女性が男子生徒と向き合い、楽しそうに笑顔を交わし合いながらゲームに興じる様子が印象的であった。その様子を見ながら思い出されたのは、スギ薬局の望月氏に担当いただいた6月15日の授業での、対話における「聞く」ことの重要性というお話であった。高齢者の話を「聞く」ことにより高齢者を取り巻く課題が見えてくる。ただし、「楽しいですか」という問いかけだけで高齢者の話は聞き出せないという対話の質についての学びも、地域協働実践の活動のなかでさらに磨かれていったのではないだろうか。また、10月19日に市内5カ所を花植え場所に設定して実施された「花溢れる街づくりプ

プロジェクト」は、外国人市民と高齢市民を結ぶための「地域協働プログラム」として開発された活動であり、豊明市のコンソーシアムを構成する諸機関との連携を深めることにより、継続的な探究学習としてさらに研究を深めていくことが期待される。生徒による主体的な探究活動の場としてどのように活動成果を継承していくのか、2月15日のポスターセッションでの発表に向けて取り組まれた「SGL地域協創学Ⅰ」での「新たな地域協働活動の探究学習」の成果に期待したい。

5. 終わりに

最後にSGHアソシエイト探究活動について触れておきたい。先に挙げた文部科学省企画評価会議の所見に、「SGHアソシエイトとしての取組が有効に活かされており、海外連携と探究活動の関連性が高まれば更に包括的で課題解決に有効な取組になる」との指摘があったことを改めて思い起こしたい。3月14日に開催される「SGL地域協働事業成果発表会」では、2年生のSGH発表と1年生のSGL発表とが初めて同一の場でそれぞれの取組成果を発表することとなる。生徒の主体性を育てながら進められたSGHアソシエイトとしての取組成果を、今後のSGL活動に発展的に継承させることができるのではないか、そんな観点からも成果発表会を捉えてみたい。

あ と が き

～SGHアソシエイト活動からSGL活動へ～

星城高等学校 副校長・星城中学校 校長 水野謙二

1. はじめに

2018年度、SGHアソシエイト校としての指定期間が残り1年となりました。2020年度以降も本校でグローバル・リーダー育成を掲げて課題解決型の探究活動を継続させるため、星城高校版のスーパーグローバル教育プログラムであるSeijoh Super Global Education、略してSSGEを実施する計画が立ち上げられました。その目的はSGHアソシエイト活動をさらに深化し発展させてSSGEを展開することによって、SSGE活動を本校の新たな特色にしていくところにあります。もちろんSSGE計画を進めることには、文部科学省のSGH後継事業への申請に備えるという意図も織り込まれています。

2018年10月に開かれた文部科学省主催の全国高等学校教育改革研究協議会において、高校教育改革をめぐる最新の動向が示されました。それはSociety5.0に向けた高校改革パッケージという文部科学省の新事業案で、新たな社会を牽引する人材の育成プロジェクトそのものでした。協議会の参加者は全国の教育委員会の指導主事や先行してパイロット事業を行っている自治体を中心でした。新事業には国際舞台で活躍できる人材育成を目指すワールド・ワイド・ラーニング（WWL）のコンソーシアム構築支援をはじめ、Society5.0を地域から分厚く支える人材育成を目指す地域魅力型・グローバル型・プロフェッショナル型のコンソーシアム構築支援が含まれていました。

高校改革の動向を踏まえ、同時に本校のSSGEの目的に照らしながら、これまで行ってきたSGHアソシエイト活動との連続性、さらにはSGHアソシエイト活動で扱ってきた課題と地元の課題の共通性を考慮に入れて、グローバル型の地域協働事業に申請するための準備を開始しました。地元豊明市の課題については、小浮正典豊明市長から著しく増加している外国人市民と高齢市民にとって暮らしやすい街づくりをいかに進めていくかが市の課題であるという有益な示唆をいただきました。SSGEプロジェクトチームで協議を重ねた結果、新規のグローバル型地域協働事業で「外国人市民との多文化共生」と「高齢市民の健康福祉」を本校のテーマとして扱えば、SGHアソシエイト活動でテーマにしてきた「多文化共生」及び「健康福祉」との共通性や連続性を明確に保持し、地域の課題解決

に向けた探究活動を展開できるとの結論に至りました。この時、まさにスーパーグローバル・リーダー育成のSGHアソシエイトを引き継ぐ形で、スーパーグローバル・リーダー育成を目指すSGL活動の幕開けが始まったと言えます。

2. SGHアソシエイト活動という財産

2015年度に本校は文部科学省からスーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイト校の指定を受け、次年度には仰星コース全員がSGHアソシエイト活動を授業として履修するための教育課程を策定しました。そして2016年度から「持続可能なアジアの発展及び社会の創生に寄与できる、実践力を有するグローバル・リーダーの育成」を目標に掲げたSGHアソシエイト活動を仰星コースの教育課程に組み入れました。2019年度の仰星コース2年生がSGLアソシエイト指定5年目にあたり、本活動での最後の学年となりました。

With Your Views For Tomorrow!（明日を描き、明日を拓こう）をスローガンに、活動は①アジア学探究活動、②交渉学（ディベート等）、③ネイティブ英語講座・イングリッシュキャンプ・海外研修、④講演会の4本柱から成り立っています。世界の日本である前に躍進めざましいアジアの一員として何ができるか、言い換えればアジアン・シティズンとして何ができるかという視点から、日本を含めたアジア地域を探究の対象にして「持続可能なアジアの発展及び社会の創生のために～提言と実践～」というテーマの下でグループ単位の探究活動を進めてきました。海外研修には星城中学生や仰星コース以外の高校生もメンバーに入れた特別班を編成し、これまで年度順にミャンマー、台湾、シンガポール、マレーシアを訪れてフィールドワークを行ってきました。SGH校外成果発表会が毎年開催され、校内発表会で高い評価を受けたグループがパワーポイントを用いて課題解決のための提言を英語でプレゼンするSGH発表会の形ができ上がりました。また、全国の有力校が集まるSGH甲子園でも本校の代表チームがポスターセッションでSGH指定校に互して発表するなど、小規模ではありますがSGHアソシエイト活動を通じてチャレンジ精神に富んだグローバル・リーダーの育成がなされてきたことを誇りに思います。中でも2017年には2年生の生徒がトビタテ留学JAPANに応募して見事オックスフォード大学に短期留学するという快挙を成し遂げ、着実に生徒が育っていることを多くの教員が実感しました。

3. 地域協働推進校としてのSGL活動

文部科学省による高等学校改革推進事業のグローバル型指定校は、グローバルな視点を持ってコミュニティーを支える地域のリーダーを育成することを目的にしています。そのため、地域の特性に応じたグローバルな社会課題をテー

マ(例えばSDGs、地域振興など)に設定し、地元市町村・企業等から成るコンソーシアムと連携して課題解決を図る探究的な学び、コンソーシアムとともに実施する地域協働活動、海外研修によるフィールドワークなどをカリキュラムとして位置づけています。同時にPDCAサイクルの下で、最終的に地域協働活動に通じる地域課題の解決のための探究的な学びを生徒に提供できるカリキュラム開発が求められています。SGH後継事業の指定初年度に当たる2019年度に全国で20校がグローバル型の地域協働推進校の指定を受けました。それまでのSGHアソシエイト活動の成果を追い風にしたSSGEプロジェクトチームによるグローバル・リーダー育成の構想が実を結び、本校も指定校の1つに選ばれたと言えます。

本校の地域協働構想は『外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト』の下で「外国人市民との多文化共生を推進する地域活動」と「高齢市民の安心・安全な健康生活づくりを協働する地域活動」を地元豊明市の街づくり協働活動と位置づけています。具体的には、生徒がコンソーシアムの所属機関(豊明市・豊明市教育委員会・株式会社スギ薬局・株式会社ARMS・国際交流協会・社会福祉協議会・星城大学・豊明高校・星城中学校等)と協働して課題解決型の地域活動を行うことによって、外国人市民と高齢市民が輝くコミュニティーを協創するものです。SGHアソシエイト活動による人材育成の理念との連続性を考え、地域協働推進校としての活動をスーパーグローバル・リーダー(Super Glocal Leader)を育成するSGL活動としています。

4. SGL活動(1年)とSGHアソシエイト活動(2年)

2019年度の仰星コースと特進コースの入学生からSGL活動が始まりました。開講式の小浮豊明市長の挨拶には地域協働活動に対する大きな期待が込められていました。1学期はSGL地域協創学でのロジカル・フレームワーク(多文化共生・健康福祉)とロジカル・シンキング(ディベート講座)を通じて、地域の社会課題に取り組めるように課題解決に向けたアプローチ方法を学びました。2学期から高齢者の大金星体操(スギ薬局)や子ども日本語教室(双峰小学校)にも生徒がグループで参加し、市内の高齢者や外国人市民の子ども達との関係づくりが始まりました。10月にはSGL活動として、ベトナム人家族や敬老会の皆さんとともに、「花溢れる街づくりプロジェクト」の下で花植え活動をしました。花植えは市内5箇所で行い、約100名の皆さんが生徒たちと花溢れる街づくりに参加してくれました。豊明市や地区の自治会の協力、さらには豊明高校の生徒や星城大学のベトナム人留学生の参加もあり、全員で喜びを共有できました。この体験をもとに生徒は2月の校内でのポスターセッションに臨みました。ポスターセッションで1年生の28班が「外国人市民との多文化共生を推進する地域活

動」と「高齢市民の安心・安全な健康生活づくりを協働する地域活動」を目指して、外国人市民と高齢市民が輝くような活動を自分たちのアイデアとして提言したことは、生徒の主体的な地域協働活動に向けての貴重な第一歩だと思います。

12月には文部科学省主催の全国高校生フォーラムでポスターセッションが行われ、「外国人市民・高齢市民と共に輝く街づくり～多街様性と受容性に富んだ架け橋づくり～」というタイトルで1年生の1チームが参加しました。発表は Making Our City Brighter with Foreign and Senior Citizens Shining－Creating a Bridge to Diversity Respecting Inclusion－と題し、すべて英語で行い審査員から高い評価を得ました。発表内容は、増加する外国人市民との共生と高齢市民の健康福祉の実現のため、地域協働活動の実践によって外国人市民・高齢市民が輝く新たな架け橋を協働したいというものでした。特に活動を通じて自分たちが学んだこととして、①多様性と受容性を尊重する心が共生・協働を可能にするということ、②自分たちの存在と取組が架け橋づくりの基盤になっていることを挙げています。こうした学びこそが外国人市民・高齢市民が輝く地域協働活動にとって大きな推進力になると考えます。

2年生のSGHアソシエイト活動は2019年度が最後となりましたが、2月のSGH校内発表会ですべてのグループが「健康福祉」をテーマにして自分たちの提言を英語で堂々と発表しました。

1位：Say Goodbye to Sleep Debt（睡眠負債よ、さようなら）

2位：Let's Help Foreigners with Food Allergies!（食物アレルギーの外国人の快適な旅対策）

3位：Extending the Average Life Span of Pakistanis（パキスタン人の平均寿命を延ばすために）

仰星コースの発表は内容もさることながら英語での発表態度や質問に対する応答もすばらしく、聴衆の生徒や保護者の皆さんに感銘を与えるすばらしいプレゼンテーションでした。まさにSGHアソシエイト活動の集大成に相応しい立派な発表だと評価できます。

5. おわりに

SGL活動では、地元が抱える外国人市民と高齢市民に係わる諸問題についてグローバルな社会課題として捉え、課題解決に向けて豊明市などのコンソーシアムと連携して地域協働活動を行っていくことを活動の根幹としています。そのため外国人市民や高齢市民との交流を通じて課題について考え、コンソーシアムの協力を得ながら課題解決のための方策を地域協働活動として展開すること

によって、進んで地域社会に貢献できるグローバル・リーダーを育成していくことを目指しています。

「外国人市民との多文化共生」と「高齢市民の健康福祉」の2つのテーマの下、SGL探究学習の中で、高校生として何ができるか、コンソーシアムと組んで何ができるか、地域の人たちと組んで何ができるか、自治体と組んで何ができるかなど、生徒が自ら考え、地域と協働して創り上げていく取組がいつそう望まれます。探究活動としてグループ単位で現地踏査をするとともに、関係するコンソーシアムの協力を得て課題解決のための仮説を立てて考察し、提言すべき内容をまとめ、グループ同士が発表し合い、その提言をコンソーシアム・地域の人々と協働して実践するというプロセスを目指さなければなりません。本校のSGL事業の目的は、このプロセスを経てスーパーグローバル・リーダーを育成することにあると考えます。活動のさらなる発展を心から祈ります。同時にAIやロボットの時代になればこそ、人間だからできる相手の立場に立った心の通い合う課題解決力や協働性を生徒が身に付けてくれることを望みます。

哲学者のニーチェは「最短の道というのは、数学的には始点と終点を直線で結んだ道となるが、現実には物事を成し遂げようとする場合には通用する最短の道はまったく別のところにある」と言っています。そして、昔の船乗りの言葉を引用して、まずは帆を上げ、目的地をめざして、勇気をもって出帆することが大切であると説いています。この1年を振り返って、星城高校のSGL活動も、船の帆を「グローバル・リーダーの育成という新しい風」で大きく膨らませて、幾多の波を超えながら、「地元豊明市の地域協働活動」という航路を力強く切り拓いていけると確信しています。

地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型
令和元年度 研究開発実施報告書 【第1年次】

令和2年3月18日印刷

令和2年3月25日発行

発行者 名古屋石田学園星城高等学校
代表者 校長 四方 元

〒470-1161 愛知県豊明市栄町新左山 20
TEL 0562-97-3111(代表)

印刷所 名英図書出版
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 1-4-10

